2　蘭印の現状維持に関する有田声明

398　昭和15年4月15日

蘭印の現状変更を来す事態発生には深甚の関心を有するとの有田外相談話

昭和十五年四月十五日

蘭印問題ニ關シ新聞記者ノ質問ニ對スル有田大臣ノ回答

歐洲戰亂ハ遂ニ北歐ニ迄擴大スルニ至リ今後情勢ノ變化ニ依リテハ或ハ和蘭其他ノ中立國ニ波及スルヤモ知ラレサル情勢ニ對スル日本ノ態度如何ヲ質問サレタノニ對シ有田外務大臣ハ左ノ如ク語ッタ。

日本ハ南洋諸地方就中蘭印ト經濟的ニ有無相通ノ緊密ナル關係ニ在リ、他方之等諸地方ト他ノ東亞諸國トノ間ノ經濟關係モ亦相當密接ナルモノカアル、要スルニ日本及之等諸國竝ニ諸地方ハ何レモ相倚リ相援ケテ共ニ東亞ノ繁榮ニ寄與シツツアル次第テアルカ若シ歐洲戰禍カ和蘭ニ波及シ諸君ノ言フカ如ク蘭印カ其影響ヲ受クルコトナラハ右有無相通、共存共榮ノ維持增進ニ支障ヲ來タスノミナラス東亞ノ平和及安定ノ上ヨリモ好マシカラサル事態トナルテアラウ。

敍上ノ見地ヨリ帝國政府ハ歐洲戰爭ノ激化ニ伴ヒ蘭印ノ現狀ニ何等カノ變更ヲ來スカ如キ事態ノ發生ニ就テハ深甚ナル關心ヲ有スルモノテアル。

399　昭和15年4月15日　有田外務大臣より在オランダ石射公使宛（電報）

蘭印問題に関する談話発出の趣旨をパブスト蘭国公使へ説明について

本　省　4月15日後9時50分発

第一一七號（至急）

往電合第七四二號ノ本大臣談話發表ト同時ニ在京和蘭公使ヲ招致シ本大臣ヨリ新聞記者ヨリ頻リニ質問アル爲政府ノ

意嚮ヲ發表セルガ右ハ客年十一月石射公使ヨリ蘭政府ヘノ申入ト同趣旨ニ出ヅ、我方トシテハ當時「ク」外相ヨリ同公使ニ和蘭ハ戰爭ニ捲込ルルコトナク通シ得ベシト信ズ從テ日本政府モ安心セラレ度云々ト答ヘタル次第ハ今モ蘭政府ノ意嚮トシテ變更ナキヲ信ズル旨ヲ述ベ最近和蘭ガ蘭印ノ保護ヲ第三國ニ依賴スルヤノ新聞報モアリ自分トシテハ和蘭ノ内政ニ容喙スル積リハナキモ蘭政府ニ於テ蘭印ニ關スル事態ヲ複雜化シ其ノ現狀ニ影響ヲ及ボスガ如キ措置ヲ執ラザランコトヲ希望スル旨申入レタルニ公使ハ交戰國ノ和蘭侵入アリ得ズトハ云ハザルモ右侵入ハ何レヨリ來ルヲ問ハズ强ク抵抗スル用意アリ日本ノ希望ハヨク了解スルガ右様ノ次第ニ付蘭印ノ現狀ヲ變更スル如キコトハ考ヘ得ラレズ本日ノ御申入ハ政府ニ報告スベキ旨述ヘ引取レリ

尙其ノ際本大臣ヨリ蘭印トノ經濟關係ヲ重視スルニ付日蘭經濟問題ニ付テハ今後更ニ交渉スル様訓令スル意嚮ナル旨述ベ置ケリ

在歐各大使ヘ轉電アリ度

米、「バタビヤ」ヘ轉電セリ

400

昭和15年4月15日　有田外務大臣より在オランダ石射公使宛（電報）

蘭本国へ戦禍波及の場合にも蘭印の現状変更なきよう蘭国政府へ善処要請方訓令

本　省　4月15日後9時15分発

第一一八號（至急、極祕）

往電第一一七號ニ關シ

歐洲戰亂ガ何時和蘭ニ波及スルヤモ計リ難キ情勢トナリタルニ鑑ミ貴電第二〇八號御來示ノ通此際速カニ政府ノ意嚮發表方取計タル次第ナルガ和蘭ガ戰禍ニ捲込ルル場合ニモ英米等ニ於テ其名儀ノ如何ヲ問ハズ蘭印ニ干渉スルニ於テハ事態ヲ著シク紛糾セシムルコトトナリ右ハ帝國政府ノ最モ欲セザル所ナリ依テ今後共蘭政府ニ於テ蘭印ノ保護ヲ第三國ニ依賴セザルハ勿論第三國ヨリスル此種干渉申入等ハ絶對ニ排除スル様萬全ノ措置ヲ取ルコトヲ切望スル次第ニシテ本大臣ノ和蘭公使ニ對スル申入モ右趣旨ニ出ツルモノナルニ付貴使ニ於テモ至急和蘭政府ニ對シ今次發表ノ次第說明ト共ニ前記ノ趣旨ニ依リ和蘭政府ノ善處方可然要望セラレ結果回電アリ度

英佛獨白伊ヘ轉電アリ度
米ヘ轉電セリ

401　昭和15年4月16日　在オランダ石射公使より
有田外務大臣宛（電報）

蘭印の現状変更なきよう蘭国外相へ善処方要請について

付記　昭和十五年四月十八日発有田外務大臣より在バタビア斎藤総領事宛電報第一四九号
蘭印問題に関する石射公使の意見転達

ハーグ　4月16日後発
本省　4月17日後着

第二二四號（至急、極祕）
貴電第一一七號及第一一八號ニ關シ（蘭印ニ對スル戰禍波及防止ニ關スル件）
本十六日外務大臣ト會談シ右貴電ノ趣旨ヲ述ヘ善處方ヲ申入レタル處外相ハ和蘭ハ現在ニ於テ蘭印ノ保護ヲ何國ニモ依賴シ居ラス將來モ之ヲ他國ニ依賴セサルヘキコト及何國ヨリノ保護ノ申出若クハ干渉アリトモ拒否スヘキコトヲ貴公使ニ正式ニ斷言スト言ヒタル後之ヲ敷衍シ假ニ不幸ニシテ和蘭カ戰爭ニ捲込マレタル場合ト雖蘭印ハ蘭印トシテ飽迄現狀ヲ維持スヘキ旨總督ヘ訓令セラレ居リ其ノ手筈モ出來居レリ獨逸カ和蘭全國ヲ占領シタル場合蘭印ヲモ自己ノ占領下ニ在リ等ト宣言スルヤモ知レサレトモ和蘭ハ之ヲ一笑ニ附センノミ「ナポレオン」戰爭ノ際和蘭ハ佛國ニ「インコーポレート」サレ居タリトハ謂ヘ英國ハ和蘭植民地ヲ勝手ニ管理シ終ニ「ケイプ」「セイロン」及海峽植民地等ヲ横領セルカ此ノ歴史ニ鑑ミ和蘭ハ英國ニ蘭印ノ保護ヲ賴ムカ如キハ御免ナリ最近伊太利新聞カ伊太利ニ於テ蘭印ノ保護ニ當ルカ如キ書振ヲ爲シタルカ伊太利ニアレ米國ニアレ（特ニ米國ノ名ヲ「メンシヨン」セリ）和蘭ハ問題ト爲シ居ラス「パ」公使ニ對スル有田外相ノ御話ハ報告ニ接シ今又貴公使ノ來訪ニ依リ右御話ノ内容ヲ知リ「コンフアーム」シタル次第ナルカ日本外相カ直ニ敍上ノ態度ヲ明カニセラレタルハ感謝スル所ナリ其ノ旨「パ」公使ニ對シ訓令發出中ナルカ貴公使ヨリモ宜シク有田外相ニ御傳ヘ請フ尚内外ノ新聞カ好題目ト許リ蘭印問題ヲ書立テ有害ニ付近ク和蘭トシテハ其ノ態度ヲ諸外國ニ明瞭リサセル積リナリト

言ヘリ本使ハ hands off ノ語ヲ使ヒテ我方ノ政策ヲ重ネテ説明シ會談ヲ終レリ

英、獨、白、伊、米ニ轉電シ佛ニ暗送セリ

尚本電趣旨「バタヴイア」ニ電報アリタシ

（付　記）

本　省　4月18日後8時30分発

第一四九號（極祕、館長符號扱）

蘭發本大臣宛電報第二一八號要領

和蘭ハ獨逸ヨリ侵犯ヲ受クルモ丁抹ノ獨乙ニ身ヲ任セタル如ク英佛ノ庇護ノ下ニ立ツノ態度ヲ執ラサルヘク對獨交戰國ノ一「ユニツト」トシテ英佛ト對等ノ「ステイタス」ニ於テ參戰スルニ至ルヘク從テ蘭印ヲ英佛ニ委ヌルカ如キコトハ避クルモノト思考セラルル處右參戰ノ場合ニ於ケル和蘭ノ對蘭印方策及日本ノ之ニ對スル對策ニ關スル卑見左ノ通リ

(イ)獨乙侵犯ノ結果蘭本國カ亡國狀態ニ陥リ蘭印カ一時本國ヨリ遊離シタル場合ハ我方ハ平和克服ト蘭印ノ自治ヲ要望シ他國ノ管理又ハ關與ヲ抑壓スルコト

(ロ)參戰當初和蘭ハ蘭印カ敵國若クハ第三國ヨリ脅威セラレサル限リ自力ヲ以テ防衛スルノ態度ヲ採ルモノト思考セラルル處我方トシテハ戰禍ノ東洋ヘ波及防止ノ政策ノ下ニ蘭印ニ對スル「ハンズオフ」ノ制札ヲ掲示スルト共ニ和蘭ノ態度ヲ支持シ英佛ノ出鼻ヲ挫クコト

(ハ)英佛蘭ハ太平洋方面ノ三國殖民地ノ共同保全竝ニ防衛ト資源ノ融通ニ關スル協定ヲ締結スル可能性アル處斯ノ如キ協定ヲ未然ニ防止スル爲ニハ蘭印ノ現狀維持及「ハンズオフ」ノ政策ヲ强調シ豫防線ヲ張ルカ或ハ我方ニ於テ蘭印不侵ノ確言ヲ獨乙ヨリ取付ケ前記協定ノ口實ヲ豫メ解消セシムルコト

(ニ)和蘭ハ其ノ國是ヨリ見テ蘭印ノ保護ヲ米國ニ依賴スルカ如キコト無キモノト思ハルルモ平素米國ノ態度ニ多大ノ望ヲ繫キ居ル和蘭心理ヨリ推測スルトキハ何時斯ル依賴ヲ爲スヤモ測ラレス尤モ米ハ内外情勢上斯ル依賴ヲ應諾シ得ルヤ疑問ナルモ比律賓保全ノ名目ノ下ニ和蘭ノ依賴ヲ引受クルヤモ知レサルニ付我方トシテハ豫メ其ノ可能性ヲ計算ニ入レ置クヲ要スヘク對蘭印聲明發表ノ如キ特ニ其ノ機ヲ失セサルコト肝要ナリ

(ホ)我方ハ東洋ニ於ケル英佛ノ植民地問題ニハ觸レスシテ蘭印ノミヲ特別扱ニセントスル以上政府ニ於テハ此ノ際至急對蘭印根本政策ヲ決定ノ上各出先ヲシテ充分頭ヲ作ラシメ置クコト肝要ナリ

尚我方新聞雜誌ノ先走リタル對蘭印議論ハ此ノ際特ニ取締ルコトヲ要ス

「スラバヤ」「メダン」「メナド」ヘ暗送アリタシ

402　昭和15年4月18日　在米国堀内大使より有田外務大臣宛(電報)

蘭印問題に関する米国国務長官声明報告

ワシントン　4月18日前発
本　省　4月18日後着

第五六九號(至急)

十七日夜國務長官ハ蘭印問題ニ關スル質問ニ答フト冒頭シ要旨左ノ聲明ヲ爲シタリ

余ハ日本政府ハ蘭印ノ現狀維持ニ關心ヲ有ストノ外相ノ聲明ヲ興味ヲ以テ讀ミタルカ蘭印ノ狀態ノ變更ハ多數ノ國ノ利益ニ直接ノ影響ヲ生スヘク全太平洋ノ國際關係上重要ノ地位ヲ占ムルモノニテ其ノ内政干渉又ハ平和的手續ニ依ラサル現狀變更ハ蘭印方面ノミナラス太平洋全般ノ安定平和竝ニ安全ニ取リ有害ナルヘシ右論結ハ一般ニ通用スル原則ニシテ且一九〇八年十一月三十日日米交換公文ニ依リ相互ニ太平洋ノ現狀維持ニ關スル方針ヲ述ヘタル約定中ノ原則ニ基クモノナルノミナラス一九二一年十二月十三日ノ米、英、佛、日間ノ太平洋方面ニ於ケル島嶼タル屬地及島嶼タル領地ニ關スル四國條約中ニ再確認サレ居リ右ハ一九二一(一九二二カ)年二月四(五カ)日和蘭政府ニ通達サレ之ニ依リ太平洋方面ノ蘭領島嶼ニ關スル同國ノ權利尊重方確保セラレ居ル次第ナリ近年平和ヲ愛好スル諸國ハ武力對策ノ放棄セラレンコトヲ熱望スルト共ニ他國ノ權利尊重、内政不干渉、平等公平ナル待遇、條約ノ遵守、必要アル場合ハ秩序アル手續ニ依リ之ニ改訂ヲ加フルコト等ヲ含ム根本原則ニ基キ平和ノ維持セラレンコトヲ熱望シ來レリ米國ハ常ニ列國政府ノ態度方針カ之等原則ニ則ルコト竝ニ之等原則カ啻ニ太平洋ノミナラス世界到ル所ニ適用セラレンコトヲ希望ス

蘭、伊ヘ轉電シ伊ヨリ英、佛、獨、白ヘ轉電セシム

蘇、滿、「バタヴイア」ヘ轉電アリタシ

403

昭和15年4月18日　在英国重光大使より
有田外務大臣宛（電報）

蘭印問題に関する有田外相談話の趣旨を英国外務次官へ説明について

ロンドン　4月18日後発
本　省　4月19日前着

第六一二號（至急、館長符號扱）

一、蘭印ニ關スル空氣ニ顧ミ此ノ際我態度ヲ説明シ置クコト然ルヘシト存シ十七日聯絡者ニ旨ヲ含メ貴電合第七四二號聲明ノ趣旨ヲ「バ」次官ニ傳ヘシメ尚我根本方針ハ東亞安定ノ見地ヨリ蘭印ニ戰禍ノ及フコトヲ希望セサルニ在リ特ニ日本ヨリ現狀ヲ變更スルノ意思無キト同時ニ如何ナル第三者ト雖現狀ニ變更ヲ來スカ如キコトヲ承認シ得サル次第ナル趣旨ヲ説明セシメタルニ「バ」ハ右ハ全然英國政府ノ考ニ合致スル次第ナリ實ハ米國ハ此ノ問題ニ付テモ恰モ自分ノ領分ノ如キ氣持ニテ種々公ケトナリ放送シ居リ甚タ不愉快ニテ近々佛國ト共ニ蘭印ノ現狀維持ヲ骨子トスル考ヲ日本政府ニ開陳シ（覺書ニテ）其ノ意見ヲ確メ米國ノ策動ヲモ封スル豫定ニナリ居レリト語リタル由ナリ

二、右ハ恐ラク英國ノ眞意ノ一半ナルヘク日本ノ進出ニ對シテモ備ヘントスルモノナルヘク從テ此ノ際蘭印ノ問題ハ日本カ主動的地位ヲ確保シ置クコト益々肝要ト存セラルルニ付英佛側ヨリ何等申出アル前ニ東京ニ於テ我方ヨリ直ニ我態度ヲ關係諸國ニ對シテ明瞭ニセラルルコト然ルヘシト思考ス

尚和蘭トノ意見交換ノコト及和蘭側意見ノ内容ハ大體本十八日新聞ニ報セラレ下院ニ於テハ本日質問應答アル趣ナリ

米、佛、蘭ヘ轉電セリ

404

昭和15年4月[18]日　在米国堀内大使より
有田外務大臣宛（電報）

蘭印問題に関する有田外相談話および米国国務長官声明をめぐる米国紙論調報告

ワシントン　4月18日後発
本　省　4月19日後着

第五七五號

一、十八日當方面諸紙ハ何レモ「米ハ日本ノ蘭印進出ヲ制壓ス」ト言フカ如キ見出ヲ掲ケ「ハル」長官ノ聲明ヲ第一面ニ報道シ居ル處各紙共右記事中我方聲明ヲ以テ獨ノ和蘭本國侵出ノ曉英、米カ蘭印ヲ押ヘントスルヲ防ク爲日本自ラ何等カノ形ニ於テ蘭印ヲ支配セントスル意圖ヲ婉曲ニ述ヘタルモノナリトシ長官ノ聲明ハ右ニ對シ太平洋ノ勢力均衡竝ニ重要資源獲得上重要地位ヲ占ムル蘭印ニ對シ米ハ無關心タリ得サルコトヲ明カニシ日本ノ執ルコトアルヘキ行動ヲ抑制セントシタルモノト解釋シ居レリ右ハ長官ノ聲明ノ冒頭ニ我方聲明ニ言及シアルコト及十八日ノ上海發ＡＰ等ニテ英、佛、米ノ艦隊當局ハ日本ノ蘭印侵略ハ有リ得ルコトナリトテ對抗準備中ト報道セラレタルニ依ルモノト察セラル

二、一般ニ與ヘタル印象ハ右ノ如クナルモ重要紙中ノ落着キタル觀測トシテハ日米兩國共蘭印ノ現狀維持ヲ欲スルモノニシテ日本先ツ進ンテ其ノ趣旨ヲ述ヘ米ヲシテ之ニ合意スル機會ヲ與ヘタリトシ（「ボルチモアサン」）或ハ日米ハ聲明ニ依リ蘭印ノ現狀尊重ヲ「コミツト」セリトナセリ（紐育「タイムス」）

三、十七日華盛頓「タイムス」「ヘラルド」ハ社說（「ニユー、シンヂケート」社ノ配給スルモノ）ニ於テ和蘭ハ過去三百年蘭印ヲ搾取シ來レルモ和蘭カ之ヲ放棄セサルヘカラサル新事態到來セル場合米トシテ日本ノ勸告ニ逆ヒテ迄現狀維持ノ爲盡スヘキ理由ナシト論シ居レリ

伊、蘭ヘ轉電セリ

伊ヨリ英、佛、獨、白ヘ轉電アリタシ

蘇、滿、「バタヴィア」ヘ轉電アリタシ

405　昭和15年4月19日　在オランダ石射公使より有田外務大臣宛（電報）

蘭印問題に関する有田外相談話および米国国務長官声明をめぐる蘭国紙論調報告

ハーグ　4月19日後発
本　省　4月20日前着

第二三六號

往電第二三四號ニ關シ

貴大臣ノ聲明ハ米國政府ノ續イテ英國政府ノ同樣ノ態度聲明ヲ誘發セル形ナル處貴聲明ニ對スル當國新聞ノ態度ヲ見

ルニ其ノ論説ニ於テ將又其ノ報道振リニ於テ一般ニ好感ヲ示シ居リ昨十八日夕刊ニテ論評ヲ加ヘタルモノハ齊シク我意ヲ得タリト爲シ就中經濟界ニ勢力アル「ハンデルスブラツト」ハ左ノ通リノ社説ヲ掲ケタリ

有田外相ノ聲明ハ和蘭ノ自主的中立政策ト合致スルヲ以テ吾人ハ之ヲ聞キ愉快ニ感ス惟フニ太平洋ノ「ステータスクオ」ハ曾テ之ヲ申合セ次テ蘭印領土尊重ヲ夫々申出テタル四國條約關係諸國ノ共通利益ナルヘシ有田大臣ニ次キ今又米國「ハル」長官モ其ノ聲明ニ於テ太平洋ノ現狀維持蘭印ノ地位不變更ヲ希望セルカ右日米兩國ノ希望ハ兩國關係カ他ノ點ニ於テ如何ナルニセヨ計ラスモ合致シ居リ又和蘭ノ國策トモ併行シ居レリ斯ノ如ク大中立國カオ互ニ蘭印ニ戰爭ノ波及セサルコトニ利益ヲ感スル事態ハ中立權カ動モスレハ侵害サレ勝チナル現狀ニ於テ頼モシ要スルニ和蘭ノ地位ハ今次日米兩國政府聲明ニ依リ一層明確トナリ且强化セリ

英、獨、白ヘ轉電シ佛ヘ郵送セリ

406

昭和15年4月20日　有田外務大臣より在オランダ石射公使宛（電報）

日蘭印経済関係調整問題に関する蘭側回答督促方訓令

本　省　4月20日後8時発

第一三四號（極祕）

貴電第二三五號ニ關シ

蘭側ガ本大臣聲明ニ對シ好感ヲ有シ居ル此機ヲ逸セズ客年往電第一八八號取極要綱ニ關スル交渉ヲ進捗セシメ度處蘭印ニ於テハ總督ハ本件ガ外交々渉ナルノ故ヲ以テ面會ヲ拒否セルモ經濟、司法兩長官、移民局長、檢事總長、副總督等ニ對シ齋藤總領事ヨリ我方意圖ヲ篤ト説明セル次第ハ御承知ノ通リニシテ最早蘭印政府ノ意見モ纒リ居ル筈ト認メラルルト共ニ先方回答ノ如何ニ依リテハ我方具体案ニ手加減ヲ加フル要アルヤモ知レザルニ付貴使ヨリ本件要綱提示以來既ニ約三ヶ月ヲ經過シ居ル點ヲモ强調セラレ政府ノ訓令トシテ此際至急回答方更ニ御督促ノ上結果回電アリ度

「バタビヤ」ヘ轉電セリ

407

昭和15年4月20日　在英国重光大使より
有田外務大臣宛（電報）

蘭印問題に関する英国の対米猜疑について

ロンドン　4月20日後発
本　省　4月21日前着

第*六二一號（至急、館長符號扱）
往電第六一二號ニ關シ
英國政府筋（一般輿論モ同様）ノ米國ニ對スル反感ハ相當强ク「バ」次官ハ連絡者ニ對シ蘭印問題ニ對スル本使傳言ノ說明ヲ感謝シ實ハ米國カ蘭印ニ對シ何等「ステップ」ヲ執ラントスル氣配モ見エ（此ノ點ハ單ニ本使ニ限リ洩スモノナリト言ヘル由）苦苦シク思ヒ居ル際日本ノ態度ニ關シ御說明ヲ得テ充分ニ了解セリ（米國ノ策動ハ英國ノ陰ニ排斥スルモノナルコトヲ洩ス）ト言ヘル由（以上ノ點ハ前電後益々明瞭トナレリ）「バ」次官カ議會ニ於テ日本ノ意見ニ全然同感ナル旨ヲ答辯セルハ右ノ如キ背景ヲ有スルモノナルニ付特ニ御含ミアリタク尙英國ハ前電ノ通リ蘭印問題ニ付日本ノ意見ヲ正式ニ聽カントスル趣旨モ主トシテ米國ノ策動ヲ日本ト共ニ防止セントノ趣旨カ含マレ居ルコト次第ニ判明シ來レリ右ハ素ヨリ「肚」ノ問題ナルカ何等御含ミ迄電報ス

408

昭和15年4月20日　在米国堀内大使より
有田外務大臣宛（電報）

蘭印の現状維持に関する米国国務長官との意見交換について

ワシントン　4月20日後発
本　省　4月21日後着

第五九三號（極祕）
一、[1]二十日本使國務長官ニ會見ノ際本使ヨリ蘭印問題ニ付テハ有田外相ノ聲明ニ引續キ長官ヨリ聲明ヲ發セラレタルカ米紙ニ現ハレタル所ヨリ見ルニ米側ニハ誤レル危惧存スルモノノ如ク思ハルト言ヘル處長官ハ以下述フル所ハ新聞ニハ發表セサリシ所ナルカト前置シ有田外相ノ聲明ニ付テハ日本ノ新聞中ニハ其ノ文面ト異レル意味ニ之ヲ解釋シ居ルモノアルカ如ク思ハレ特ニ日々新聞ノ如キハ右聲明ハ日本ノ東亞ニ於ケル「リーダーシップ」ヲ要求スルモノナリト解シ宛モ蘭印ニ對シ經濟上ノ獨占的利益

ヲ集中スルヤノ印象ヲ與ヘタリ日本ニ於テハ東亞ノ「モンロー」主義ヲ主張シ居ルモ右ハ米ノ「モンロー」主義ト甚タシク異ルモノアリ米ノ「モンロー」主義ニ關シテハ何レ他ノ機會ニ日本側ニモ開陳シタキ考ナルカ之ハ政治的ノ安全ヲ求ムルモノニシテ卽チ米大陸以外ノ何レカノ國カ米大陸ニ於テ新ナル政府又ハ權力ヲ設定スルコトハ米大陸ノ安全ヲ害スルモノトシテ之ヲ容認セストノ趣旨ナリ然ルニ日本ノ東亞「モンロー」主義ハ排他的、獨占的經濟利益ヲ主張セントスルモノナリヤニ解セラレ米トシテハ之ヲ默認シ得サルモノナリト述ヘタルニ付本使ハ今日ハ「モンロー」主義ニ付深ク論議スル暇ナキモ當座ノ所見トシテ述ヘタキハ第一ニ日本ノ新聞ノ論議シ居ル點ハ必スシモ政府ノ政策ヲ代表シ居ルモノト言ヒ得サルハ勿論ノコトニテ一部ノ政治家中個人ノ意見トシテ東亞「モンロー」主義ヲ提唱シタル者アリシナランモ帝國政府トシテハ斯ル主張ヲ正式ニ發表シタルコトナシ

二、[2] 第二ニ以上ノ點ハ別トスルモ日本トシテハ經濟上獨占的立場ヲ主張スルモノニアラス有田外相ノ聲明ニ明カナル如ク日本ト蘭印トノ緊密重要ナル關係ニ鑑ミ戰局ノ東亞ヘノ波及ヲ防クコトノ利益ナルヲ明カニシタルモノニシテ經濟的獨占ヲ口ニセルモノニアラス尙又貴長官ハ「モンロー」主義ハ政治的安全ヲ目的トスト言ハルルモ元來國家ノ「セキユリテイー」ハ政治上ノミナラス經濟上ノ安定ヲモ含ムコト勿論ナルヘシ又米ノ「モンロー」主義ニ付見ルモ現ニ米洲安全地帶ヲ海岸ヨリ數百哩ノ遠キニ迄及ハシメントスル等其ノ解釋ヲ擴張シツツアルノ事實ヲ指摘セサルヲ得ス此ノ問題ニ付テハ今日是以上深ク論議セサルヘキモ要スルニ有田外相カ過日聲明ヲ出シタルハ最近和蘭本國カ歐洲戰爭ニ捲込マルル場合蘭印ノ保護ヲ外國ニ依賴スルヤノ風說モアリタル爲日本ノ態度ヲ明カニセルモノナリ幸ヒ去ル十六日和蘭外相ハ蘭印ノ保護ニ付未タ何レニ對シテモ要求シタルコトナク又將來モ亦其ノ意思ナシ又何レカノ外國ヨリ保護干涉ヲ申出ツル場合ニ於テハ是ヲ拒絕スル決心ナリト言明スル所アリタルニ付和蘭ニ關シテハ日本側ニテ此ノ言明ヲ諒トシタル次第ナリ又米側ニ於テモ貴長官聲明ニ依リ蘭印ノ現狀維持ノ方針ヲ明カニセラレタルハ結構ナリト言ヘルニ對シ長官ハ米側トシテハ日本カ支那ニ關シ門戶開放主義ノ維持

ヲ屢々聲明セラレタルニ拘ラス其ノ後事實ノ發展ヲ見ルニ滿洲ニテハ米人ノ商賣カ事實上不可能トナリ支那ノ占領地帶ニ於テモ同樣ノ事態發展シツツアルニ鑑ミ蘭印ニ付テモ同樣ノ不安ヲ感シ居レリト述ヘタルニ付本使ヨリ門戸開放ノ方針ニ付テハ本使ヨリ從來屢々說明シタル通リ支那ニ於テハ大規模ノ作戰行ハレ居ルニ付種々ノ障害アルモ最近ハ事態漸次改善セラレ我方關係官憲モ經濟ヲ常態ニ復スル爲最善ノ努力ヲ盡シ居ル次第ナリト說明シ置ケリ

英、伊ヘ轉電セリ

英ヨリ佛、獨、白、蘭ヘ轉電アリタシ

蘇、滿ヘ轉電アリタシ

409　昭和15年4月24日　在オランダ石射公使より有田外務大臣宛（電報）

日蘭印經濟關係調整問題での回答督促に対する蘭側の説明振りについて

ハーグ　4月24日後発
本　省　4月25日前着

第二四二號（極祕）

貴電第一三四號ニ關シ（日蘭印國交調整ニ關スル件）

一、本件ハ往電第二二九號ノ如ク既ニ本使ヨリ外相ニ督促シタルコトニモアリ本電第二項本使ト植民大臣トノ昨日ノ會談ニ依リ先方ノ態度明カトナレルモ折角ノ御訓令故本二十四日改メテ外相ニ申入ヲ爲シタル處外相ハ本使ト植民大臣トノ會談ヲ承知シ居リ植民大臣ノ言ヘル如ク御返事ハ五月中ニ爲シ得ヘシト答ヘタルニ付日本政府トシテ此ノ際至急知リタキハ本使ヨリ申入レタル要綱ニ依リテ和蘭政府カ日本ト交渉ニ入ル心組ナリヤ否ヤニ在ル處蘭印ヨリノ「アドヴアイズ」ハ如何ナル形ニテ來ルモノナリヤト問ヒタルニ外相ハ夫レハ自分モ未タ承知シ得サルモ和蘭人ハ御承知ノ通リ「リアリステイツク」ナ國民故蘭印ニテハ具體案ニ付テモ研究シタルモノト思ハル何レニセヨ自分トシテハ交渉ヲ纏メタキ考ナリト言ヘリ

二、是ヨリ前昨二十三日本使ハ植民大臣ヲ往訪シ一週間前外相ニ催促シタル次第ヲ告ケ蘭印ヨリノ「アドヴアイズ」ハ何時頃期待シ得ルヤト尋ネタルニ植民大臣ハ「ハンモーク」經濟長官ハ既ニ意見ヲ纏テ總督ニ提出シ總督ノ決

裁ヲ俟チツツアル由ナルカ五月中(in the course of)ニハ日本側ヘ御返事シ得ヘシト考フ蘭印ニ於テハ具體案ヲモ研究シタルモノト思ハル従テ問題ニ依リテハ「バタヴィア」ニ於テ貴我間ニ話合フヲ便利トスル事項モアルヘシ自分ハ一方ニノミ有利ナル協定ヤ條約ハ決シテ永續スルモノニアラス此ノ點ニ付理想的ナルハ一九三六年成立ノ米蘭通商條約ニシテ日本トノ間ニモ是ニ倣ツテ協定ヲ成立セシメタシト考ヘ居レリト言ヘリ

三、以上ニ依リ當地政府當局ハ歐洲時局ノ如何ニ拘ラス日本トノ交渉ニ入ル考ヘナルヲ知ルヘシ尚先方カ五月中ニ御返事出來ル見込ト言フ以上夫レヲ待ツ外無カルヘシ

「バタビヤ」ヘ轉電アリタシ

英、佛、獨、白ヘ暗送セリ

410　昭和15年5月(3)日　有田外務大臣より在南京日高(信六郎)大使館参事官他宛(電報)

蘭印問題をめぐる対米施策に関し堀内大使の意見具申転報

本省　発
南京　5月3日着

合第八八六號(極祕)

米[1]發大臣宛電報第六三四號

往電第六一三號ニ關シ

蘭印問題ヲ廻ル日米關係ノ將來ヲ考察スルニ

一、先ツ米蘭間ニ蘭印ノ保護ニ關シ密約乃至了解存スルヤ否ヤノ點ニ付テハ米外交ノ傳統及外交上政府ト議會ノ犬猿關係ニ鑑ミ又比律賓スラ兎角ノ議論ハアレ大体豫定通リ獨立ヘノ途ヲ辿ル事情等ニ顧ミルモ米蘭間ニ保護ノ密約乃至了解ハ存セスト推定シテ誤リナカルヘク又此ノ際米側ヨリ進ンテ蘭印保護引受ヲ買ツテ出テ延テ太平洋乃至極東ノ事態ニ波瀾ヲ捲起スカ如キコトハナキモノト思考セラル従ツテ獨カ和蘭ニ侵入スル場合ニ於テモ日本カ蘭印ニ對シ積極的軍事行動ニ出テサル限リニ於テハ差當リ米ノ動キ無キモノト觀察シ得ヘシ(尤モ斯ル場合ニ米カ西半球ニ於テ「モンロー」主義ヲ口實ニシ蘭領「ギアナ」及「キユラソー」其ノ他ノ蘭領西印度島嶼ニ對シ第三國ノ實力波及ヲ防止スル目的ヲ以テ何等カ豫防的措置

ニ出スルコトナキヲ保シ難ク此ノ點ハ「グリーンランド」ニ對スル米ノ動向ト共ニ注意ヲ要スヘシ）

二、從ツテ米カ蘭印問題ニ關シ動クコトアリトセハ右ハ日本ノ出方如何ニ懸ルモノト考ヘ得ヘク右ノ場合ニモ觀念上ニ於テハ日本カ獨ニ荷擔シテ交戰國トシテ蘭印ニ對シ積極的行動ニ出スル場合ト日本カ歐洲戰爭トハ別個ニ蘭印ニ行動スル場合トヲ分チテ考ヘ得ヘキモ米トシテハ一面心理上既ニ英佛ト共同戰線ニ在リトノ思想アルト共ニ從來ノ戰爭不參加論ハ主トシテ歐洲ヲ對照トシ來タレルニモ鑑ミ此ノ議論ヲ以テ一概ニ米ノ對極東乃至太平洋政策ヲ一貫シ居ルトハ斷定シ難カルヘク蘭印問題ニ關スル限リ我方トシテハ歐洲戰爭ニ對スル參加不參加論トハ別個ノ「カテゴリー」ニ於テ米ノ態度ヲ觀察スルヲ安全トスヘシ

三、(2) 而シテ米ノ對抗手段トシテハ第一ニ對(日)經濟制裁カ考ヘラルル處右ニ對シテハ我方トシテモ蘭印ヲ占據スル場合ニハ報復的ニ往電第六一三號米蘭印ノ物資補給關係ニ鑑ミ米ノ必要トスル戰略物資ノ對米輸出差シ止ムルノ措置ニ出テ得ヘキ次第ナルヲ以テ右ノ點ニノミニ立脚シ米ハ輕々ニ對日禁輸ニ出テ難ク米トシテ結局無條約狀態ヲ利用シ諸種ノ方法ニテ我海運及邦品輸入ヲ妨害スルト共ニ本邦積出金銀ノ買上停止等ノ措置ニ出スルコトトナルヘシ又右ノ外差當リ海軍ノ整備擴張ニ拍車ヲ掛ケ日本ニ對シ無言ノ威壓ヲ與フルニ止マルヘシト觀測スル向アルモ元來米海軍ノ主張カ政府ノ外交政策決定上相當有力ナル外米海軍內ニハ對日戰爭論モ相當有力ナルヤニ想像セラルル實情ニ鑑ミ(往電第五六五號及第六二〇號參照)對日戰爭ニ出テサル迄モ米トシテ我方ノ動キヲ阻止スルカ爲ニ積極的行動ニ出スルコトアルヘキハ覺悟シ置クヲ要ス(「ムアー」「ソコルスキー」等ハ右ノ場合ニハ大統領ハ戰爭ヲ辭セサルヘシト觀測シ居レリ殊ニ「ムアー」ノ如キハ消息通ノ意見ナリトテ戰爭必至ト迄極言シ居レリ)旁々米ノ戰爭不參加論ハ前記ノ通リ從來主トシテ歐洲ヲ對照トシ來タレルモノトノ見解米官民間ニ漲リ居リ日本ノ大陸進出ノ成果ヲスラ疑問トシ居ル當國ノ實情ナルヲ以テ支那事變ノ成果ヲ未完成ノ內ニ壞サントノ意味合ヲ以テモ何等カノ措置ニ出スルコト推察ニ難カラサルヘシ

四、右ノ如ク米ノ動キアル場合ニハ米ノ去就ハ直ニ支那人心ニ微妙ニ反映シ蔣政權ニ對シ對日敵愾心作興ノ好個ノ材料ヲ與フルハ勿論英佛ノ對支援助ヲ促進スルト共ニ(我方カ獨ニ荷擔シ蘭印ニ手出シスル場合ハ勿論ノコトナリ)蘇聯モ對日態度ヲ極度ニ活潑ナラシムル結果ヲ招致スヘク延テ支那事變處理ノ我根本使命遂行ニ支障ヲ與フルト共ニ我方ヲ知ラス知ラスノ内ニ歐洲戰爭ニ捲込ミ歐洲戰爭不介入方針ニ背馳スルノ結果トナルヘキヤヲ惧ルル次第ナリ

而シテ貴大臣聲明發表ニアタリ政府ノ意圖セラレシ處ハ大体ハ英蘭ニ關スル限リ差當リ其ノ實效ヲ收メタルモノト認メラルル次第ニシテ我方今後ニ於ケル對蘭印態度ハ歐洲戰局ノ推移ト睨ミ合セテ愼重ニ之ヲ考究スルコト得策ナリト信ス

五、[3]今後萬一ノ場合トシテ考ヘ得ルハ獨ノ和蘭侵入ノ場合英カ紙上ニテ蘭印ノ保護引受ケヲ宣言スル等ノ可能性ナルカ右英カ對獨戰爭遂行上竝ニ極東ニ於ケル權益ノ擁護上我ヲ馳テ獨ノ陣營ニ走ラシムルコトナキ樣極度ニ意ヲ用ヒ居ル事情ニモ鑑ミルモ將又貴大臣聲明ニ對スル英官邊ノ反響等ニ鑑ミルモ英トシテモ右ノ如キ平地ニ波瀾ヲ招クカ如キ措置ニ出スヘシトハ想像シ得サルト共ニ情勢ノ如何ニ依リテハ我方ヨリ進ンテ右防止ノ爲適當ノ手當ヲ講シ置クコトモ一案ナルヘシ

六、又蘭印ニ對スル處置トシテハ場合ニヨリ四國條約ヲ基礎トシ日英米佛四國間ニ(場合ニ依リ蘭ヲモ加ヘ)共同管理其ノ他適宜ノ措置ヲ協議スルコトモ考ヘ得ル處右ハ四國條約ヲ基礎トスルト共ニ支那問題トハ全然別個ノ話ニ屬スルカ故ニ我對支政策ニ關シ第三國ノ容喙ヲ誘致スル惧レアリトハ認メ難ク又從來我國トシテハ單ニ經濟的利益ノミヲ有シ居タル地域ニ對シ政治的ニ一歩ヲ進メ將來ノ發言權ヲ確保スル途ナリトモ認メ得ヘキモ他方右四國間ノ共同措置ハ交戰國タル英佛ヲ太平洋方面ニ引出ス結果トナリ且ツ歐洲戰爭不介入ノ立場ヲ堅持スル我國カ英佛ト共ニ蘭印ノ前後(善カ)措置ニ當ルハ獨ニ於テ決シテ好感ヲ以テ迎フル處ニアラサルヘキニ付我方トシテハ必要ノ場合ニハ寧ロ四國條約ノ精神竝ニ太平洋ヘノ戰禍防止ノ趣旨ニ依リ單ニ米側トノ間ニ具体的了解ヲ遂クルコト最モ得策ナルヘシト存ス

セ、[4]而シテ右了解ハ(イ)和蘭本國カ歐洲戰爭ニ捲込マレ自ラ蘭印統治及防備ノ責ニ當リ得サルコトトナリタル場合ニハ「アイスランド」ノ場合ノ如ク蘭印政府ヲシテ自ラ右責任ヲ執ラシムルコト(ロ)蘭印ノ現狀維持ヲ確保シ且ツ歐洲戰爭ノ太平洋方面ニ波及スルコトヲ防止スル爲日米兩國ハ同領ノ安全ヲ保障スル旨共同聲明ヲ發スルコト(ハ)右共同聲明ノ效果トシテ日米兩國ハ蘭印ノ共同管理ヲ引受クルモノニハアラスシテ第三國ノ管理又ハ干涉ヲ排除スルノ意嚮ヲ明カニシ兩國ノ意志ヲ以テ現狀維持ノ確保ヲ計ルモノナルコト(從ツテ第三國カ之ヲ無視セサル限リ實力使用ノ必要ヲ生セス)ノ諸點ヲ基調ト爲スヲ適當トスヘシ

而シテ若シ日米間ニ右ノ如キ了解成リ之ヲ聲明スルニ至ル場合ニハ(一)日本ハ蘭印ノ現狀維持及之トノ通商關係ノ繼續ヲ確保シ(二)蘭印將來ノ運命ニ關シ重要ナル發言權ヲ獲得シ得ヘキノミナラス(三)米ノ太平洋ニ於ケル責任ヲ加重シ從ツテ米ノ歐洲參戰ヲ牽制スル結果トナリ(四)米トノ平和的共同措置ニ依リ米側ノ南洋方面ニ對スル對日疑惑ヲ緩和シ(五)更ニ日米共同ノ動作ニヨリ自ラ支那及蘇聯邦ニ對スル我威壓ヲ强メ得ヘク(六)米佛及獨ノ何レニ對シテモ蘭印ヘノ手出シヲ封シ以テ帝國不介入ノ政策ヲ貫撤(徹カ)シ得ヘシ

而シテ右了解ニ關スル對米交涉ノ時期ハ我方ニ於テ和蘭本國ノ形勢愈々急迫セリト認メタル時ヲ以テ最モ適當ト爲スヘシ尤モ米トシテハ日本カ蘭印ニ手出シセストノ確信ヲ得ルニ至ラハ現實ニ獨又ハ英佛カ蘭印ニ對シ何等措置ニ出スヘシトノ兆見ヘタル以上我方申入ノ時期タルコトハ其ノ可能性少シトモ觀測セラルルモ我方トシテハ右日米共同措置ノ了解不成立ノ場合ニモ何等失フ處ナク我公正ナル態度ヲ世界ニ闡明スルノ效果アリト存ス

本問題ハ帝國ノ國際的關係ニ及ス處極テ重大ナルモノアルヘキニ鑑ミ敢テ卑見ヲ稟申ス

伊ヘ轉電セリ　伊ヨリ佛、獨、白、蘭ヘ轉電アリタシ

蘇滿ヘ轉電アリタシ

本電宛先　北京、上海、南大

411　昭和15年5月11日

蘭印現状維持に関する有田外相の関係国への申入れ要領

蘭印現状維持ニ關スル有田大臣ノ關係國大公使ヘノ申入及會談要領

（昭和一五、五、一一）

五月十一日午後閣議ニ於テ外務大臣ヨリ歐洲戰局カ和蘭ニ波及セルニ鑑ミ曩ニ聲明セル蘭領印度ニ關スル我方態度ヲ關係交戰國及米伊兩國ニ夫々通告シ置クコト可然旨諒解ヲ求メタル後同日午後四時半ヨリ獨逸「オツト」大使、和蘭「パブスト」公使、英國「ドッヅ」參事官（大使不在ノ爲）、佛國「アンリー」大使、伊國「コルテーゼ」代理大使ノ順ニテ外務省ニ來訪ヲ求メ獨逸大使ニ對シテハ別紙甲號和蘭公使ニ對シテハ別紙乙號英佛大使ニ對シテハ別紙丙號（省略）通申入レ（獨大使ニハ同時ニ四月十五日ノ大臣談話寫ヲ手交ス）伊國代理大使ニ對シテハ上記關係國大公使ニ對シ申入レヲナシタル次第ヲ參考トシテ通告シタルカ右會談要點左ノ通尚米國側ハ不在ナリシ爲吉澤亞米利加局長ヨリ米參事官ニ通報スルコトトセリ

一、獨逸大使

獨逸大使ハ大臣申入レヲ了承シ本國政府ニ傳達ヲ約シタル上歐洲戰況ニ付談話ヲ交ヘタル後今次獨逸側ノ對蘭白覺書中ニハ獨逸側カ本國及植民地ノ主權尊重ノ態度ヲ表明シ居レリト述ヘタルニ付大臣ヨリ獨逸側ヨリ主權尊重ノ態度ヲ表示アリタルモノトシテ日本政府ニ報告シ可ナルヤト反問シタルニ「オツト」大使ハ尤モ覺書中ニハ先方カ抵抗セサル場合ト限ラレ居レリト述ヘ大臣ヨリ帝國政府カ蘭印ノ現狀維持ニ重大關心ヲ有スル次第ヲ本國政府ニ傳達アリ度キ旨再應念ヲ押シ置ケリ

二、和蘭公使

大臣ノ申入ニ對シ帝國政府ノ御申出ハ誠ニ御尤ナリト答ヘタリ

三、英參事官及佛大使

英參事官及佛大使ハ大臣申入ニ對シ末尾ノ蘭印經濟問題ニ關スル點ニ付何レモ符節ヲ合セタル如ク和蘭カ戰爭ヲ遂行スル目的ノ爲ニ何等カ制限措置ヲ執ルハ英（佛）トシテ何トモ出來サルヘシト述ヘタルニ付大臣ヨリ御話ノ通已ムヲ得サル場合アルヤモ知レサルカ我方申入レハ和蘭カ英佛ト共同シテ戰爭スルカ爲ニト述ヘ居ル點ニ留意ア

リ度シト述ヘ置ケリ

四、伊國代理大使

大臣ノ通報ヲ謝シタル後曩ニ行ハレタル大臣聲明ハ米國政府ニ手交セラレタルヤト質問セルニ依リ我方ニ於テハ之ヲ米國政府ニ通達セサリシモ華府ニ於テ政府ノ訓令ニ依ラス單ニ「インフォメエション」トシテ米側ニ手交シタルコトアリト答ヘ又今回聲明文ノ寫ヲ獨逸側ニ手交シ英佛側ニハ手交セラレサリシ理由ヲ尋ネタルニ依リ大臣ヨリ本問題ニ關シ獨逸側ト話シ合フハ初メテノコトナレハナリ英佛側ハ曩ニ我方カ聲明ヲ行ヒタル際先方ヨリ同感ノ意ヲ表シ來レルニ付今回ハ之ヲ手交スル必要ヲ認メサリシモノナリト説明シ又今次各國ニ對スル申入レハ正式申入レト諒解シ可ナリヤト問ヒタルニ付大臣ヨリ然リト答ヘ置ケリ

（別紙甲號）

蘭印ノ現狀維持ニ關スル對獨申入

帝國政府ハ日本ト蘭領印度トノ緊密ナル經濟關係及ヒ東亞ノ平和及安定ノ見地ヨリ蘭印ノ現狀ニ何等カノ變更ヲ來スカ如キ事態ノ發生ニ就テハ深甚ナル關心ヲ有スル次第ニシテ曩ニ四月十五日本大臣ヨリ右旨宣明スル所アリタルカ今回歐洲戰局カ和蘭ニ波及シタルニ鑑ミ右帝國政府ノ關心ハ一層切實ナルモノアリ就テハ茲ニ前述四月十五日發表寫ヲ差上クルニ付右ノ次第貴國政府ニ傳達アリ度シ

尚蘭印ノ現狀維持尊重方ニ關シテハ本日他ノ關係交戰國政府ニモ申入ルルコトトシタルニ付右爲念申添フ

（別紙乙號）

蘭印ノ現狀維持ニ關スル對蘭申入

帝國政府ハ日本ト蘭領印度トノ緊密ナル經濟關係及ヒ東亞ノ平和及安定ノ見地ヨリ蘭印ノ現狀ニ何等カノ變更ヲ來スカ如キ事態ノ發生ニ就テハ深甚ナル關心ヲ有スル旨曩ニ四月十五日本大臣ヨリ宣明スル所アリ右ニ關シテハ當時和蘭政府ニ於テモ之ニ同感ナル旨從テ蘭印ノ保護ヲ何國ニモ依賴セス又何國ヨリノ保護ノ申出若ハ干渉モ之ヲ拒否スル決意ヲ表明セラレタルカ今回不幸ニシテ歐洲戰局カ和蘭ニ波及スルニ至リ帝國ノ本問題ニ關スル關心ハ切實ナルモノアリ、帝國政府ハ貴國政府カ今后モ右ノ決意ヲ堅持セラルヘ

キコトヲ期待スルモノナリ
尚貴國カ英佛ト共同シテ獨逸ト交戰セラルル結果蘭印ニ關スル新ナル措置ノ爲日本ト蘭印トノ經濟關係ノ維持增進カ阻害セラルルニ至ルカ如キコトハ貴國トノ傳統的友好關係ニ鑑ミ我方ノ堪ヘ難キ所ナルニ付此點貴國政府ニ於テモ特ニ留意セラレンコトヲ希望ス
尚本件ニ付テハ他ノ關係交戰國ニモ申入レタリ

412　昭和15年5月11日　有田外務大臣より在オランダ石射公使宛（電報）

蘭印問題に関するわが方要請を蘭国政府へ通告方訓令

別電一　昭和十五年五月十一日発有田外務大臣より在オランダ石射公使宛第一五〇号
蘭印に関する日蘭懸案解決方要請
二　昭和十五年五月十一日発有田外務大臣より在オランダ石射公使宛第一五一号
蘭印産品の対日供給確約方要請
三　昭和十五年五月十一日発有田外務大臣より在オランダ石射公使宛第一五二号
右物資のわが方年間必要量
四　昭和十五年五月十一日発有田外務大臣より在オランダ石射公使宛第一五三号
日蘭印通商関係調整に関する具体案骨子

本　省　5月11日後8時発

第一四九號（大至急）
今次獨蘭ノ交戰狀態ニ關聯シ帝國トシテハ
一、和蘭カ蘭印ニ關シ貴電第二二四號ノ言明ヲ實行シテ蘭印ノ保護ヲ他國ニ依賴セス又何國ヨリノ保護ノ申出若クハ干渉アリトモ拒否スルコト
二、我必要トスル蘭印產物資買付ケ確保ニ關シ如何ナル形ニ於テモ之ヲ阻害セサル旨和蘭側ヲシテ確約セシムルコト
三、入國、企業及一般通商關係調整ノ爲「バタヴイア」ニ於テ交渉開始方ニ付蘭側ノ同意ヲ取付クルコト
ニ付重大ナル關心ヲ有スルニ付別電第一五〇號及第一五一號ノ趣旨ヲ「ク」外相ニ申入レ回答ヲ求メラレ度但シ上記二、ノ必需物資ニ就テハ他ノ諸點ニ對スル回答ヲ待タルルコトナク不取敢至急文書ヲ以テ其ノ回答ヲ取付ケ方御配慮相

成度

尚必要ノ場合ハ別電第一五二號ノ數量ヲ提示サルルモ差支ナシ

別電ト共ニ英、佛ヘ轉電アリタシ

別電ト共ニ獨、米及「バタヴイア」ヘ轉電セリ

（別電一）

本　省　5月11日後8時30分発

第一五〇號（大至急）

一、帝國政府ノ憂慮セル事態ハ今ヤ不幸ニシテ發生シ戰禍ハ貴國ニ波及シ同情ニ堪ヘサル處帝國トシテハ蘭印ニ關スル貴外相ノ言明（貴電第二二四號）カ當然實行セラルルコトト信シ居レリ然シ乍ラ日蘭印ノ關係ハ通商、企業、入國等一般經濟關係ヲ調整スルコトナク此ノ儘放任スル時ハ双方ノ不滿ハ深刻化スル惧アリ遂ニ兩國輿論ハ國際的紛糾ニ伴フ「デマ」宣傳等ニ影響セラレ兩國ノ傳統的友好關係ニ如何ナル影響ヲ及ホスヤモ計リ難シ依テ帝國トシテハ蘭印ヲ中心トスル日蘭間諸懸案ヲ速カニ解決シ以テ兩國間ノ蟠リヲ消滅セシメタル上多難ナルヘキ今後ノ情勢ニ對處スルコト双方ノ爲望マシキコトト思考ス就テハ蘭側ニ於テモ出來得ル限リ速カニ我方一般原則（客年往電第一八八號）ニ對スル意向ヲ表示セラルルト共ニ蘭本國ノ現狀ニ鑑ミ本件交渉ヲ促進スル爲商議地ヲ蘭印ニ移スニ同意セラレ度

但シ右話合妥結迄ニハ相當ノ時間ヲ要スト思考セラルルニ付不取敢別電第一五一號諸物資ノ對日輸出ニ關シ至急文書ヲ以テ確約相成度右ハ既ニ貴大臣ヨリ原則的ニ異議ナキ旨言明（客年貴電第一一三號）セラレタル次第アルニ付蘭印總督ニ對シ右確約通リ措置方訓令セラルル樣致度

尚日蘭印間輸出入全般ヲ調整スル爲ノ具體案竝ニ入國、企業等ニ關スル具體案ハ不日提示ノ豫定ナルカ其ノ骨子ハ別電第一五三號ノ通ナリ

（別電二）

本　省　5月11日発

第一五一號（至急）

貴大臣ヨリ日本ノ必要トスル蘭印產物資ノ日本向ケ輸出ニ對シ和蘭政府ハ何等妨害的措置ヲ執ラサル趣旨ノ言明アリ

帝國政府モ之ヲ多トシ居ル處右ニ關シ今般帝國政府ノ訓令ニ基キ左記ノ通申入ルルニ付和蘭政府ニ於テモ帝國政府ノ意ノアルトコロヲ好意的ニ考慮シ肯定的回答ヲ致サレンコトヲ希望ス

帝國政府ハ蘭印トノ友好密接ナル關係ヲ助長シ且如何ナル事態ニ於テモ之カ攪亂セラレサルコトヲ希望スルモノニテ右ハ和蘭政府ニ於テモ同意見ナリト存スル處右精神ニ於テ兩國政府ハ如何ナル場合ニ於テモ日、蘭印間ノ貿易阻害ヲ目的トスルカ如キ措置ヲ執ラサルコトヲ確約シ殊ニ帝國政府ハ和蘭及蘭印政府ニ於テ一、錫(鑛石共)、二、護謨、三、鑛油、四、「ボーキサイト」、五、「ニッケル」鑛、六、滿俺鑛、七、「ウォルフラム」、八、屑鐵、九、「クローム」鐵鑛、一〇、工業鹽、一一、「ヒマシ」、一二、規那皮、一三、「モリブデン」等ノ日本向ケ輸出ヲ阻害スルカ如キ何等ノ措置ヲ執ラサルコトノ確約ヲ與ヘラレンコトヲ希望ス

（別電三）

第一五二號(至急)　　本　省　5月11日発

別電第一五一號掲載ノ品目番號ノ順序ニテ其數量左ノ如シ

一、三千瓲　二、一萬五千　三、一百萬　四、二十五萬　五、十萬　六、五萬　七、一千　八、十萬　九、五千　一〇、八萬　一一、四千　一二、五百　一三、一千

（別電四）

第一五三號　　本　省　5月11日後8時30分発

具體案輪廓

一、通商關係

今次我方ニ於テ蘭印ヨリノ對日輸出ヲ阻害セサルヘキ旨ノ確約ヲ要望セル我方必需物資以外更ニ蘭側ノ希望スル物產ノ買增方ヲ出來得ル限リ好意的且具體的ニ考慮スル用意アル處蘭側ニ於テモ蘭印ニ於ケル日本品ノ輸入竝ニ在留邦商ニ對スル輸入割當其ノ他ニ付蘭側ノ好意的考慮ヲ要望ス

二、入國關係

蘭印ノ立場ヲ尊重シ無理ナル要求ハ爲ササルモ差當リ現行蘭印入國令ニ於テ既ニ認メラレ居ル範圍ニ於テ邦人ノ

入國ヲ容易ナラシムルカ如キ實際的ノ便宜供與ヲ要望ス一方我方ニ於テ蘭人ノ本邦入國ニ對シ便宜ヲ供與スル用意アルハ勿論ナリ

三、企業關係

連雲港其ノ他和蘭ノ在日滿支權益ノ維持增進竝ニ懸案解決ニ努力スル一方我方ニ於テハ從來蘭側特ニ地方官憲カ徒ラニ法規ニ拘泥シテ不親切ナル態度ヲ示スノミナラス往々ニシテ排日的猜疑心ヲ加ヘテ既存邦人企業ノ維持發展ヲ阻止セムトスルカ如キ場合少カラサルニ付右ヲ是正スルト共ニ蘭印側カ各種企業特ニ鑛業方面ニ於テ英米ニ對シテハ廣大ナル利權ヲ與ヘ乍ラ我方ニ對シテハ徒ラニ保留地域ノ擴大其ノ他ノ門戸閉鎖措置ニ依リ新規事業ノ着手ヲ殆ント不可能ナラシメ居ル現狀ノ改善方ニ付友好的話合ヲ致度次第ナリ

四、輿論取締關係

前記通商、入國及企業關係ニ付友好的ニ意見ノ一致ヲ見タル場合ハ双方自發的ニ排日及排蘭的輿論取締ノ爲適當ノ措置ヲ講スルコト

413

昭和15年5月11日　有田外務大臣より在オランダ石射公使宛（電報）

対独抗戦のための蘭印資源使用が対日輸出を阻害しないよう蘭側へ確認方訓令

本　省　5月11日後10時30分発

第一五四號（至急）

往電第一四九號ニ關シ

貴電第二九一號ニ依レハ「ク」外相ハ和蘭ノ有スル無盡藏ノ資源ヲ悉ク共同目的ノ爲ニ使用スル旨演說セル趣ノ處冒頭往電ノ要求ヲ爲ス場合右外相ノ演說ヲ引照シ右ハ對日輸出ヲ阻害スル意圖ニ出テラレタルモノニ非ルヘシトノ念ヲ押シ外相ヲシテ篤ト考慮ノ上我方ノ希望ニ副フ樣仕向ケラレ度

貴電第二九一號ト共ニ「バタヴイア」ニ轉電セリ

414

昭和15年5月11日　在バタビア斎藤総領事より有田外務大臣宛（電報）

蘭印現状維持および蘭印産物資の対日供給に関するわが方希望を蘭印副総督へ申入れについて

バタビア　5月11日後発
本　省　5月11日夜着

第二五七號

本十一日「スピツト」副總督ヲ往訪シ劈頭和蘭カ戰爭ニ捲込マレタルニ對シ遺憾ノ意ヲ表シタルニ「ス」ハ之ヲ謝シ次テ本官ヨリ訓令ニ基クモノニハアラサルモ有田大臣ノ聲明ニ依リ御承知ノ如ク帝國政府ノ蘭印ニ對シ希望スル所ハ其ノ現狀維持ナルト共ニ經濟的ニハ蘭印ノ重要資源ノ自由ナル購入ニアリ和蘭カ獨立的ニ獨逸ト戰フヤ將又聯合軍ニ參加シテ獨逸ト戰フヤハ承知セサルモ若シ帝國カ必要トスル資源ノ殆ト大部分ヲ聯合國側ニ提供シ本邦ヘノ輸出ノ餘力ヲ殘ササルカ如キ事態ノ發生ナキ樣蘭印政府ニ於テ考慮アリタシ現ニ新聞ハ米國カ五萬噸ノ錫買付ヲ計畫シ居ル旨報シ居ルモ右數量ニシテ米國ニ向ケラレンカ一年有餘ハ日本向ノ餘力ナカルヘシト述ヘタルニ「ス」ハ貴官竝ニ日本政府ノ方針ハ自分ニ於テ良ク了解シ且德トスル所ニシテ貴方御希望ニ協力ヲ與フル意嚮ナルモ何分開戰早々ノコトニモアリ目下ノ所何等經濟方面ニ就テノ方針ハ決定シ居ラサルニ付確定的ニハ何トモ申シ上ケ得サルモ貴意ノアル所ハ良ク了承セリト述ヘ居タリ尙其ノ際輸入制限ニ付テ蘭印政府ノ方針ヲ質シタルニ前言ヲ繰返スノミナリシヲ以テ本官ハ兩國親善關係ニ鑑ミ日本ノ對蘭印輸出ヲ阻害スルカ如キ措置ナキ樣希望ス現ニ海牙ニ於テハ蘭印貿易問題交涉中ナルニモ拘ハラス日本陶器ノ閉出シ（貴電第一六五號）ノ如キ措置ヲ採ラレタルハ遺憾ニシテ日本政府ニ對シ好マシカラサル印象ヲ與ヘタルハ否ミ難ク特ニ各省長官ノ事務ヲ總攬セラルル貴官ノ深甚ナル御考慮竝ニ御斡旋ヲ煩度シト述ヘ置ケリ

二、約束時間短時間ナリシ爲充分意ヲ盡シ得サリシモ前記ノ如ク「ス」ニ於テ確約ヲ澁リ居タル點竝ニ海牙ニ於ケル折衝ヲ希望スル旨洩シ居タル點等ニ鑑ミ蘭印重要物資ノ聯合國側ヘ振リ向ケラルル可能性充分アルヤニ認メラレタルニ付本件ニ關シテハ海牙ニ於テモ本國政府ニ對シ然ルヘク申入ラレテハ如何カト存ス

蘭ヘ轉電アリタシ

「スラバヤ」「メナド」「メダン」ヘ暗送セリ

415　昭和15年5月11日　在英国重光大使より有田外務大臣宛（電報）

蘭印に対する日本の野心を強調した外国勢力による宣伝活動の背景について

ロンドン　5月11日後発
本　省　5月12日前着

第七五三號

一般的情報

帝國ノ蘭印ニ對スル野心ヲ强調シ米國ノ警戒及支那問題ヲ背景トスル太平洋ノ暗雲ヲ報スル宣傳何處カラトナク執拗ニ行ハレ居リ之ニ對シテハ本使ニ於テモ英國當局ニ隨時注意ヲ喚起シ居ル處右ハ日米衝突ヲ誘發セントスル共產系ノ策動ナルト共ニ米國ヲ太平洋方面ニ於テ牽制スルヲ目的トスル宣傳ナルコトモ明白ニシテ獨逸ノ和蘭侵入後時ヲ移サス帝國ノ對蘭印態度ヲ聲明セラレタルハ我方ニ對スル疑惑ヲ解消セシムル上ニ多大ノ效果アリタルモノト認メラル

蘭へ轉電セリ

416　昭和15年5月11日　在オランダ石射公使より有田外務大臣宛（電報）

蘭国外相急遽訪英の真意につき観測報告

ハーグ　5月11日後発
本　省　5月12日前着

第二九八號

獨軍ノ和蘭侵犯早々「クレフエンス」外相カ獨機ノ重圍ヲ脫シテ急遽倫敦ニ飛ヒタルハ何故ナルヘキヤ英軍ノ援助要請ノ爲ナラハ軍事當局者ヲ同伴スヘキニ「ウエルタ」植民大臣カ同行シタルコトヨリ見テ疑問ニ堪エス往電第二九七號會談ノ際夫レトナク探リヲ入レテ見タルニ政務局長ハ「コンモンコーズ」ニ付相談ノ爲竝ニ和蘭ノ將來ノ獨立確保方ニ付了解ヲ遂クル爲トノミニテ深ク言及セサリシカ極東植民地ノ物資相互融通ノ談合ハ當然トシテ其ノ他右植民地ノ共同保存ニ付談合ヲスル爲ニアラスヤト想像セラル和蘭カ蘭印ノ現狀維持ニ關スル先般ノ言明ヲヨモヤ裏切ル如キコトヲ爲ササルヘシトハ考フルモノノ「ク」ノ訪英眞意疑問ニ堪ヘサル儘右申進ス尙「ク」及「ウエ」カ巴里ニモ廻ルヤ否ヤノ點注意ニ値スト存ス

英、佛、白、米へ轉電セリ
御見込ニ依リ「バタヴイア」へ轉電アリタシ

417　昭和15年5月13日　有田外務大臣より在米国堀内大使宛（電報）

蘭印現状維持に関する対米提議は時宜に適さざる旨回訓

本省　5月13日後4時30分発

第二二四號（至急、極祕）

貴電第六九四號ニ關シ

蘭印ノ現狀維持ニ關スル本大臣聲明ハ蘭印ノ重要性ニ鑑ミ帝國獨自ノ立場ヨリ之ヲ行ヒタル次第ナルカ米國ハ我方ト異リ四月十七日及本月十一日ノ「ハル」聲明ニ徴スルモ本件ヲ太平洋ニ關スル四ケ國條約ノ延長的措置トシテ取扱居リ旁々此際我方ヨリ働キ懸クルカ如キコトアラハ支那事變ヨリスル米ノ對日慢心ヲ更ニ增長セシムヘキ外米ハ之ヲ四ケ國條約關係ノモノトシテ處理方要求スヘク之カ爲延テハ九ケ國條約乃至東亞新秩序等ノ問題トモ關聯セル論議ヲ國ノ內外ニ惹起スル虞レアルト共ニ西太平洋一般特ニ蘭印ニ對スル米ノ發言權ヲ從來以上ニ增大セシムルコトトモナリテ面白カラサルニ付我方ヨリ進ンテ働キ懸クルコトハ避ケ度意嚮ナリ尤モ將來歐洲戰爭更ニ深刻化スルカ如キ場合ニ米側ヨリ我方ニ「アツプローチ」シ來ルコトアラハ時ノ情勢ニ應シ適當考慮シタキ意嚮ナリ右貴使極祕ノ御含迄

伊へ轉電セリ
伊ヨリ英、佛、獨、蘭へ轉電アリタシ

418　昭和15年5月13日

蘭印現状維持に関する英国政府回答についての情報部長談話

蘭印に對する英國政府の回申に關する情報部長談

昭和十五年五月十三日

五月十三日午后六時クレーギー英國大使は有田外務大臣を外相官邸に來訪し去る十一日外務大臣より同大使に對し蘭領東印度に關し爲したる申入れに對し本國政府より回訓ありたる趣を以て英國政府は蘭領東印度に關する日本政府の關心に全然同感にして唯蘭領東印度に於ける和蘭の兵力は

同島の現狀を維持するに充分なるへしと信せられ且英國は同島に關し干渉するか如き何等の意圖を有するものに非すとの趣旨を口頭にて申述へ六時四十分辭去せり。

419　昭和15年5月13日　有田外務大臣より在オランダ石射公使宛（電報）

蘭領西インド諸島への英仏軍上陸に鑑み蘭印現狀維持に関する蘭側確約取付け方訓令

本　省　5月13日後8時40分発

第一六七號

同盟電報ニ依レハ十二日英當局ヨリ英佛軍ハ秩序維持ノ爲「キユラサオ」及「アルバ」島ニ上陸セル旨發表セラレタル趣ノ處若シ右ノ如キ事態蘭領東印度ニ於テ發生スルコトアラハ右ハ貴電第二二四號「ク」外相ノ貴使ニ與ヘタル言明ト矛盾シ當然重大問題化スル次第ニテ貴電第二九八號ノ貴使御懸念モ主トシテ此ノ點ニ存スル次第ト思考スルニ就テハ貴使ハ至急外相ニ面會セラレ蘭印ニ關スル蘭國政府ノ決意ニハ何等變更ナキ旨ノ確言ヲ取付ケラレ結果折返シ回電アリタシ

英、佛ヘ轉電アリタシ

米ヘ轉電セリ

420　昭和15年5月13日　有田外務大臣より在オランダ石射公使宛（電報）

今次対蘭通告は経済関係の互恵的調整以外に他意なき旨関係方面へ説明方訓令

本　省　5月13日後8時40分発

第一六八號

往電第一四九號ニ關シ

「ク」外相カ貴使ニ對シ五月中ニハ去ル二月我方ヨリ提案セル取極要綱ニ對スル蘭側回答ヲ爲シ得ヘシト述ヘタルニ拘ラス急遽冒頭往電申入方訓令セルコトニ付蘭側又ハ蘭側ヨリ漏レ聞クコトアルヘキ英、佛、米側ニ於テ我方ノ意嚮ヲ誤解スルモノナキヲ保セサル處御承知ノ通リ右ハ獨蘭兩國カ突如交戰狀態ニ入リタル結果機ヲ失セハ國交調整ニ關スル友好的話合ノ續行不可能トナル恐アル爲前記「ク」外相ノ回答ヲ待ツコトナク具體案ヲ提示シ「バタヴイア」ニ於ケル商議ヲ可能ナラシメントスル目的ニ出テタルモノニ

テ經濟關係ノ互惠的調整以外ニ他意ナキ次第ナルニ付必要ニ應シ右可然説明相成度爲念

訓令トシテ米、「バタヴィア」ヘ轉電セリ

訓令トシテ英、佛、伊ヘ轉電アリ度

伊ヨリ獨ヘ轉電アリ度

421　昭和15年5月15日　有田外務大臣より在英国重光大使宛（電報）

蘭印現状維持に関する英国大使との意見交換について

本　省　5月15日後9時30分発

第三五七號

十三日在京「クレーギー」英大使本大臣ヲ來訪シ蘭印問題ニ關スル英國ノ態度等ニ付往電合第一〇〇五號ノ通リ述ヘタル後日本モ蘭印ニ干渉スル意思無キモノト了解スル旨述ヘタルニ付本大臣ヨリ右ハ勿論ノコトナリ外國新聞等ニテハ此ノ點ヲヨク了解セサル爲種々憶測ヲ爲スモ右ハ誤解ナリト答ヘ尚我方ハ蘭印ノ政治的及經濟的現狀維持ヲ欲スルモノナリト述ヘ經濟問題ニ付テモ我方ノ關心ヲ示シタルニ同大使ハ經濟問題ハ例ヘハ「マレー」半島ニ關シテモ其ノ輸出品カ敵國ニ向ケラレサルコトニ付日本側ト話合ヲ遂ケツツアリ蘭印ニ付テモ話合ニ依リ同樣措置スルコト可能ナリト考フル旨述ヘタリ

英ヨリ佛、伊ニ轉電アリタシ

米、蘭、「バタヴィア」ニ轉電セリ

422　昭和15年5月15日　有田外務大臣より在独国来栖大使宛（電報）

蘭印現状維持に影響ある措置または宣言を実施せぬよう独国政府へ非公式要請方訓令

本　省　5月15日後11時10分発

第二八〇號（至急、極祕）

傳ヘラルル和蘭軍ノ降伏ハ政府ノ降伏ニアラサルヘク從テ交戰國ノ何レカカ此ノ機會ニ蘭印ニ迄影響ヲ及ホスヘキ措置ヲ執ルカ如キコトナカルヘシト思考スルモ獨逸側カ日本ト英佛米トノ關係ヲ混亂セシムル等ノ目的ノ爲合併宣言又ハ類似ノモノヲ發スルコトナシトモ斷シ難ク或ハ又獨逸ノ作成スル新和蘭政府ヲシテ何等聲明ヲ爲サシムル可能性ナ

キニ非ス萬一右ノ如キコトアル場合ハ日本トシテモ從來聲明ノ手前何等カ反對ノ聲明ヲナス必要ニ迫ラルルノミナラス之ヲ切掛ニ英佛側カ蘭印ニ對シ何等カ措置ヲ執ルコトモ懸念セラルヘシ他方今日我國内ニ於テハ蘭印問題ヲ重視シ輿論モ神經過敏トナリ居ルニ付和蘭軍降伏後ノ事態ニ付テハ更ニ種々ノ意見モ出ツヘク旁々此際獨乃至新政府カ蘭印ニ對シ何等ノ措置ヲ執ラサルコトヲ特ニ必要トスル次第ナリ本大臣ノ在京獨大使ニ對スル申入モ(往電合第九八三號)今日ノ事態ヲ慮リタル爲ナルカ此ノ際獨側ニ内密申入レ再應念ヲ押シ置クコト適當ト思考スルニ付貴使ハ至急「リ」外相ニ對シ前記本大臣ヨリ「オット」大使ヘノ申入ノ次第ヲ「リマインド」シ此ノ際獨逸カ蘭印現狀維持ニ影響アル宣言又ハ措置ヲ行ヒ日本ヲシテ曩ノ宣言ノ手前モアリ之ニ對抗スルカ如キ措置ヲ執ラサルヲ得サラシムル如キ事ハ事態ヲ紛糾セシムルヲ以テ之カ所以ヲ適宜說明セラレ此際斯ノ如キ措置ヲ執ラサル樣非公式ニ懇談セラレ結果至急回電アリタシ

伊ニ轉電シ伊ヨリ英、佛ニ轉電セシメラレタシ

米、蘭ニ轉電セリ

423

昭和15年5月15日　有田外務大臣より在オランダ石射公使宛(電報)

蘭印現狀維持および蘭印産物資対日供給に関するパブストとの会談内容について

本　省　5月15日発

第一七二號(極祕)

在京和蘭公使十五日本大臣ヲ來訪シ訓令ニ依ル趣ヲ以テ蘭領東印度ニ關シテハ米英佛トモ其ノ保全ニ干渉スル意思ナキモノト信セラルル旨及蘭印ヨリ日本需要ノ石油ノ輸出ニ今後モ支障ナカラシムル意嚮ナル旨述ヘタルニ付本大臣ハ日本ハ石油ノミヲ重視シ居ルモノニ非ス一般通商關係ハ素ヨリ一切ノ原料品ヲ入手シ得ルコトヲ重視スル次第ナリト述ヘタルニ蘭公使ハ訓令中何故石油ニ付テノミ述ヘタルヤ知ラサルモ從來日本ニ於テハ非常ノ場合蘭印ノ石油カ米國等ニ抑ヘラルルコトヲ惧レ居リ此旨自分モ嘗テ政府ニ報告シ置キタル爲ナルヤモ知レス自分モ日本カ他ノ原料品ヲモ重視セラレ居ルコトヲ充分承知スル旨述ヘタルニ付本大臣ヨリ最近諸般ノ情況カ日蘭印間經濟關係ヲ阻害スルカ如キモノアリタルニ付之カ交渉方海牙ニ訓令シタル旨ヲ告ケ尙

西印度ニ關スル英佛側ノ干渉ハ和蘭ノ要求ニ基ク趣ナルカ西印度ニ付テハ兎モ角東印度ニ對シテハ問題ハ斯ク簡單ナラス若シ東印度ニ付和蘭カ同様ノ形式ニテ英佛ノ干渉ヲ招クコトアラハ事態ヲ紛糾セシムル惧レアルニ付絶對ニ避ケラレ度ク右ハ永ク當地ニ在勤ノ貴使ニ於テ充分御諒解ノコトト思考スル旨述ヘタルニ公使モ右ヲ了承セリ

伊、米ニ轉電セリ

伊ヨリ英、佛、獨ヘ轉電アリタシ

424　昭和15年5月15日　有田外務大臣より在オランダ石射公使宛（電報）

蘭印に関し第三国の援助を要請しないよう蘭国政府から確約取付け方訓令

本　省　5月15日発

第一七三號（極祕）

和蘭軍降伏ヲ見タル今日蘭印ニ對スル帝國ノ關心ハ一層切實ナルモノアリ交戰國ノ何レモカ蘭印ニ對シ何等ノ措置ヲ執ラサルコト極メテ緊要ト思考ス仍テ獨逸大使ニハ獨宛往電第二八〇號ノ通リ訓令シタル次第ナルカ（右ハ貴使限リノ御含迄）和蘭トシテモ今後蘭領東印度ニ於テ西印度ニ於ケルカ如キ措置ヲ執ラサルコト肝要ナルニ付貴使ハ往電第一七二號本大臣ト蘭公使トノ會談御參照ノ上至急蘭國政府ニ對シ蘭領東印度ニ關シ今後事態ノ推移如何ニ拘ラス英佛ニ援助ヲ依頼スルカ如キ事アラハ事態ヲ紛糾セシムルコトナルヘキ旨ヲ篤ト御説明ノ上斯ル事態ノ發生セサル様重ネテ申入レラレ先方ノ確言ヲ求メラレ結果至急回電アリタシ

英、米ニ轉電セリ

英ヨリ佛、伊ニ轉電シ伊ヨリ獨ヘ轉電セシメラレタシ

425　昭和15年5月16日　有田外務大臣より在バタビア斎藤総領事宛（電報）

蘭印問題に関する対蘭通告を蘭印政府へ通報し好意的措置をとるよう要請方訓令

本　省　5月16日後3時30分発

第二〇二號（至急）

往電第一八二號ニ關シ

和蘭政府倫敦ヘ移轉セルヤノ報モアリ石射公使ニ於テ本件

申入ヲ早目ニ行ヒ得ルヤ懸念セラルルト共ニ右申入可能ノ場合モ何レハ蘭政府ヨリ蘭印ヘ移牒セラルヘキモノナルニ付貴官ハ總督又ハ副總督ニ面會ヲ求メラレ本國政府ヘ申入ノ筈ナルモ念ノ爲メ貴官ヨリモ之ヲ行フモノナル旨ヲ御說明ノ上蘭宛電報第一四九號以下訓令ノ趣旨(第一五二號ノ數量ヲモ含ム)御申入ノ上至急本國政府ヘ傳達スルト共ニ蘭印政府ニ於テ之カ實現方ニ付好意的措置ヲ執ル樣御要請相成度

英ヘ轉電セリ

英ヨリ佛ヘ轉電アリ度

426　昭和15年5月16日　有田外務大臣より在英国重光大使宛(電報)

石射公使の到着が遅れる場合には在英蘭国政府当局に対し蘭印問題の通告執行方訓令

本　省　5月16日後6時発

第三六二號(至急、極祕)

在蘭石射公使宛往電第一四九號ニ關シ

石射公使ヨリ冒頭往電訓令執行濟ノ旨報告ニ接セサル處十五日夕刻以來東京、海牙間ノ電報不通トナリタル一方右訓令ハ至急執行ノ要アルニ付同公使カ今明日中ニ貴地ニ到着セサル場合ニハ貴使ヨリ貴地ニ在ル和蘭政府當局(首相、外相、次官、植民大臣又ハ其ノ他適當ナル官憲)ニ對シ同公使ニ代リ右訓令ヲ御執行相成度(蘭宛往電第一五二號ノ數量モ御提示相成度)

尙蘭印總督ヘモ至急同樣申入レ方在「バタヴイア」總領事ニ訓電セリ

佛ヘ轉電アリタシ

「バタヴイア」ヘ轉電セリ

427　昭和15年5月16日　有田外務大臣より在バタビア斎藤総領事、在英国重光大使宛(電報)

蘭印産物資の対日供給を原則として制限しないとの蘭側回答について

本　省　5月16日後9時発

合第一〇三二號(至急、極祕)

在蘭公使宛往電第一七二號ニ關シ

十六日在京和蘭公使本大臣ヲ來訪前回會談ノ際ノ貴大臣御申聞ハ本國政府及蘭印總督ニ報告セル處蘭印總督ヨリ石油ハ素ヨリ錫、護謨及其ノ他ノ原料品ニ就テモ其對日輸出ヲ制限スル意思ナク又一般經濟關係ヲ從來通リ持續スルコトヲ希望スル次第ナル旨回電アリタリト述ヘ更ニ本國政府ヨリモ右同様指令越セリトテ其ノ内容ヲ披露シタルモ之ニハ右種貨物カ敵國ニ仕向ケラレサルコト及和蘭ノ uital needs (vitale) ハ除外スル旨ノ但書ヲ附シアリタルカ此ノ點ニツキ今日直チニ論議スルコトハ不得策不必要ト認メタルニ付其儘トシ置キタリ當方トシテハ獨蘭戰爭開始後蘭印總督ニ賦與セラレタル廣汎ナル權限(往電合第九九四號)ニモ鑑ミ今後トモ蘭印政府ヨリノ返答ヲ引用シテ行キ度考ナリ蘭宛往電第一四九號訓令執行ニ就テハ右御含ミノ上御接衝相成度

本電宛先英「バタヴイア」、米ヘ轉電セリ

英ヨリ佛、伊ヘ轉電アリ度

伊ヨリ獨ヘ轉電アリ度

428　昭和15年5月16日　在バタビア斎藤総領事より有田外務大臣宛(電報)

わが方が必要とする蘭印産物資に関し対日供給を阻害する措置をとらないよう蘭印経済長官へ申入れについて

バタビア　5月16日前発
本　省　5月16日夜着

第三三〇號

一、[1]本十五日午前「フアンモーク」經濟長官ヲ往訪シ(「ホ」通商局長同席)先ツ不幸ナル和蘭ノ狀態ニ付同情ノ意ヲ表セルニ兩人ハ沈痛ノ面持ニテ之ヲ謝シ暫ク沈默ニ耽レリ

次テ本官ヨリ通商、企業、入島ノ問題ニ關シ過般來和蘭本國ニ於ケル彼我交渉ノ經緯及要旨ヲ概略説明シタル上右ハ貴官ニ於テモ既ニ御承知ノコトト思考スル處(「モ」ハ最近ノ石射公使申出ニ付テハ未タ和蘭ヨリ何等通報ナシト答ヘタリ)時局紛糾ノ際果シテ石射公使ニ於テ和蘭政府ト充分聯絡ヲ取リ得タリヤ否ヤモ承知セス從テ本官ハ本件交渉カ「バタヴイア」ニ移サルヘシトノ訓令ハ受ケ居ラサル次第ナルカ今日トナリテハ和蘭ニ於ケル交渉ハ事實上不可能トナリ結局當地ニ於テ何レ公式ノ交渉ヲ

開始セラルルモノト思考スルモ我方右申入ヲ爲スニ至リタル事情ハ一ニ經濟關係ノ調整以外ニ何等他意アルニアラストテ蘭宛貴電第一五〇號及第一五一號等ノ趣旨ヲ敷衍說明シ曩ニ「ク」外相カ日本向ケ輸出ニ對シ妨害的措置ヲ執ラスト言明セラレタルハ我方ノ多トスル所ナルカ此ノ際貴官ヨリモ如何ナル形ニ於テモ蘭印政府カ將來日蘭貿易ヲ阻害スルカ如キ措置ヲ執ラレサル旨ノ確言ヲ得度シト述ヘタルニ「ハ」長官ハ同盟電等ニ依リ蘭印ニ英國兵上陸セリ等ノ「デマ」飛ハサレ居リ人心ヲ不安ナラシムルカ如キハ極メテ遺憾ナルカ今ヤ和蘭モ戰爭ニ捲込マレタル結果日本ト同樣自由ニ各國ノ商品ヲ輸入シ得サル立場トナリタリ然レトモ我方ハ如何ナル立場ニ於テモ日蘭印貿易ヲ阻害スル意嚮ナク又貴官カ述ヘラレタル日本カ必要トセラルル重要物資ノ日本向輸出ハ「エマーゼンシー」ノ場合ノ外之ヲ阻害スル意嚮ナク且日本トノ正常ノ貿易關係ニハ何等變更ノ意嚮ナシト述ヘタルニ付本官ヨリ「エマーゼンシー」トハ如何ナル意ナリヤト問ヒタルニ對シ同長官ハ今ノ所如何ナル場合ナルヤハ具體的ニ申上ケ得サルモ例ヘハ盾貨維持ノ爲ニ必要トスル場合ノ如シト答ヘタリ

仍[2]テ本官ハ同長官ノ前記確言ヲ謝スルト共ニ「ク」外相ハ蘭印ノ資源ヲ共同目的ノ爲ニ使用スヘシト倫敦ニ於テ聲明セラレタリトノ新聞電報アリ且又米國カ蘭印錫ニ對シ「クレヂット」ヲ設定シ蘭印ヨリ多量ノ錫ヲ購入セントノ報道モアル處日本トシテハ屢次申述ヘタル通リ其ノ必要トスル物資ヲ入手シ得サルカ如キ事態ノ發生ナキヤヲ惧レ居ル次第ナリト述ヘタルニ「ハ」ハ米國ノ蘭印錫購入云々ニ付テハ何等承知シ居ラサルモ右外相ノ聲明中ニハ「レソーセス」ト稱シ居リ特ニ物資トハ述ヘ居ラサルニ付例ヘハ同盟國トシテ財政金融上ノ援助等ハアリ得ヘク又獨逸ヘノ物資ノ流入阻止ノ措置ニ出ツヘキコトハアリ得ヘシト答ヘタル上日本ヘノ輸出ハ何等阻害スルコトナシト繰返シ述ヘ居タリ更ニ貴電第一九三號㈡英佛蘭植民地ノ物資輸出ニ關シ三國間ニ「プール」組織ノ可能性アリヤ否ヤト尋ネタルニ斯クノ如キコトハアリ得ヘカラスト答ヘタリ

依テ我方ハ生存及國防ニ絕對必要トスル物資ノ入手ニ深甚ナル關心ヲ有スル次第ハ既ニ屢次機會アル毎ニ貴方當

局ヘノ申入ニ依リ御承知ノ通リニシテ此ノ種物資（蘭宛貴電第一五一號末段列記ノ十三品目ヲ例示シ置ケリ）ノ對日輸出ヲ阻害スルコトアラハ我方ノ憂慮シ居ル所謂現狀維持ノ變更ト認ムヘシト述ヘタルニ兩人共相當「シヨツク」ヲ受ケタル模樣ニテ言葉ノ裏ニ「スレツト」ヲ含ム如キ印象ヲ受ケ不愉快ナルカ現狀維持ニ關シテハ日本ノミノ問題ニモアラサルヘキモ蘭印政府トシテハ何處迄モ之ヲ維持スル意嚮ナリト述ヘタルニ付本官ヨリ何等「スレツト」ノ意味ヲ含ミ居ラサルハ勿論ナルカ右現狀維持ニ關シテハ政治的ト經濟的ノ兩方面アルヲ率直ニ御注意シ且對日重要物資輸出ニ關スル帝國政府ノ關心ヲ輕視セラレサランコトヲ希望シ居ルニ他ナラス從テ蘭印側ニ於テ何等措置ヲ執ラレタル後ニテハ既ニ「ツーレート」ナルニ付事前ニ帝國政府ノ意圖ヲ詳細通報シ且其ノ重要性ヲ率直ニ披瀝シ置クコトハ兩國親善關係增進ノ爲必要ナルト共ニ右ハ本官ノ使命ナリト思考スルモノニシテ此ノ際特ニ繰返シ申上ケタキハ日本ノ眞意ハ飽迄モ兩國ノ親善竝ニ經濟關係ノ增進ニ在ル次第ナレハ蘭印側ニ於テモ此ノ際率直ニ我方ノ意ノアル所ヲ了解シ右兩國ノ親善關係增進ノ爲努力セラレンコト希望ニ堪ヘスト述ヘタルニ「ハ」長官ハ良ク了解セルモノノ如ク肯キ居レリ最後ニ本官ヨリ本會談ハ委細總督ヘ報告アリタシト述ヘタルニ只今ヨリ總督ト會見スルコトトナリ居ルニ付早速右樣取計フヘシト答ヘタリ[3]

三、「ハ」長官退出後更ニ「ホ」ノ部屋ニ於テ懇談ヲ續ケタルカ「ホ」ハ尙現狀維持云々ヲ氣ニシ蘭印ノ立場及其ノ物資竝ニ太平洋ノ治安ニ關シ關心ヲ有シ居ル國ハ他ニモアリト述ヘ暗ニ英米モ無爲ニハ止マラサルヘシトノ英米依存ノ態度ヲ仄カシタルヲ以テ茲ニ於テ本官ハ開キ直ツテ然ラハ右貴官ノ言ヲ「クオート」シ差支ナキヤト述ヘタルニ「ホ」ハ遽ニ態度ヲ改メタルニ付更ニ詳細敷衍說明ヲ與ヘタルニ「ホ」モ大イニ之ヲ了解セルモノノ如ク對日輸出ヲ阻害スルカ如キ意嚮ナキ旨ヲ繰返シ述ヘ居タルカ本官ヨリ對日貿易ハ結局減少スヘキ旨蘭印側有力銀行家ニ於テ洩ラシ居タル趣ニテ邦商側ニ相當「シヨツク」ヲ與ヘ居レリト述ヘタルニ「ホ」ハ之ヲ一笑ニ附シ日本ヨリノ輸入ハ大部分必需品ナルヲ以テ寧ロ今後大イニ增加スヘク現ニ綿布其ノ他ニ付「ライセンス」發給ヲ

爲セルノミナラス往電第三〇九號日本陶器輸入ノ問題モ既ニ事實上解決セルヲ以テシテモ明カナラスヤト語リタル上日本側ニ於テモ砂糖ノ購入問題等ニ付一層御努力アリタシト述ヘタルニ付本官ハ右斡旋ニ最善ノ努力ヲ爲スヘシト答ヘ更ニ辭去ニ際シ要スルニ此ノ際蘭印側トシテハ日本ノ提議ヲ率直ニ受入レ眞ニ日本ト經濟的提携ヲ爲サルレハ萬事問題ナカルヘキニ付特ニ貴官ノ決意ヲ促ス次第ナリト附言シ置キタルカ「ホ」ハ本官着任以來曾テナキ上機嫌ナリキ

429　昭和15年5月16日　在仏国沢田大使より有田外務大臣宛（電報）

蘭印産物資の対日供給問題などに関する蘭国外相の内話要領について

パリ　5月16日後発
本省　5月17日後着

第三六七號

十五日原田壽府ニテ舊知ノ間柄ナル和蘭外相「フアン、クレフエンス」ト全ク私的ニ會談ノ機會アリタルカ同外相ノ談話要旨左ノ如キ趣ナリ

一、今回ノ獨軍侵略ハ實ニ暴虐ノ程ヲ極メタルモノニシテ和蘭軍ノ損害ハ全軍ノ四分ノ一ニ及ヒ戰鬪員ノ死傷モ相當ノ數ニ上レリ和蘭ハ過去ニ於テ既ニ一回西班牙ノ爲席捲セラレ今日ト同樣ノ憂目ヲ見タルコトアリタルモ完全ニ自力更生シタルコトアルヲ以テ他日ノ再興ノ確信ノ下ニ聯合國側ニ立チ戰爭ヲ續行スル所存ニシテ白耳義ヘ退却セル蘭軍ハ編成替ノ上戰線ニ立タシムルコトトナルヘシ

二、日蘭關係ニ付テハ曩ニ石射公使ヨリ日本政府側ノ眞意ヲ承リ居リ良ク了解シ居レリ又日本側ニ於テ希望セラレ居ル經濟調整問題ニ關シ和蘭政府ニ於テハ之カ交渉ニ應スル用意アルモ唯一ノ條件ハ日本側ノ買付ケラルル物資カ獨逸側ニ再輸出サレサルコトニ在リ右ノ問題サヘ解決セラルレハ自分ノ方ニ於テハ日本側ノ要求サルル物資ノ供給ニ應スル所存ナリ

石油ニ關シテハ輸出禁止ヲ行フ意思ナク現ニ歐洲方面ニ於テ消費シツツアル石油ハ殆ト全部「ベネズエラ」産ニシテ距離ノ關係上蘭印産品ヲ當方ニ廻スコトハ採算合ハス又最近輸出禁止ヲ行ヒタル三種ノ品目中鹽ハ氣候不順

ノ爲ニ生産額ノ減少（現地需要ヲ滿タス必要上）ノ結果ニ基クモノニシテ「ボーキサイト」ハ支拂方法ニ關シ協定成立セサリシ爲屑鐵ハ和蘭本國ノ需要上已ム無ク禁止ヲ行ヒタルモノナリ

三、蘭印政府ハ完全ニ治安ヲ維持シ居リ相當ノ軍備サヘ整ヘ居ルヲ以テ一朝事アランカ自力ヲ以テ領土ヲ防禦シ得ヘシト信ス尙豫テ日本側提議ニ係ル一般的原則ハ自分ノ見ル所ニテハ極メテ「ジエネラス」ナルモノト認メラルルカ右ニ關スル蘭印政府ノ意見ハ來週中ニ飛行便ニテ當方ニ到達スルモノト期待シ居レリ云々右何等御參考迄因ニ同外相ハ十六日倫敦ニ向フ由

英、伊、米ニ轉電セリ

430　昭和15年5月16日　在英国重光大使より有田外務大臣宛（電報）

蘭印問題や日英通商改善協議に関する英国外相との意見交換について

ロンドン　5月16日後発
本　省　5月17日後着

第八〇八號

十六日「ハリハツクス」ヲ往訪新内閣ノ外相トシテ最初ノ挨拶ヲ交換セリ其ノ際外相ヨリ[1]

一、天津問題ニ付テハ最近ノ經過ヲ充分記憶セサルモ解決出來ソウニテ喜ヒ居レリトノコトナリシニ付本使ハ全然同感ナリ本件ニ付テハ英側ニ何等カ形式上ニ亘ル困難アル樣ナルカ斯樣ナコトニ拘ルコト無ク速ニ解決セラルルコト可然トテ「バ」次官ニ對スルト同樣ノ說明ヲ與ヘ置ケリ次ニ

二、蘭印問題ニ關シ英側ノ態度ニ付テハ東京ニ於テ充分了解セラレタルコトト思考スル處英國ハ日本政府ノ表明セラレタル現狀維持提議ニ付テハ全然同感ニシテ又日本政府ノ希望セラルル蘭印物資輸入ノ經濟上ノ關係ニ付テモ充分了解シ居レリ實ハ當地ニ在ル蘭國外相ト會談シタル處同外相モ是等日本ノ希望ニ對シテハ充分滿足ヲ與ヘ得ヘシト述ヘ居リタリトテ貴電第三五七號「クレギー」說明ノ趣旨ヲ述ヘ英國ノ態度ヲ說明シタルニ依リ本使ハ蘭印問題ニ付テハ大體誤解無カルヘシト思考ス日本ノ態度ハ政治上經濟上現狀ヲ維持シ日本ノ近所ニ戰爭行爲ヲ見ル

コトハ好マス而シテ特ニ日本ハ蘭印ノ物資ニ依存スル所多キニ付充分物資ヲ得貿易ヲ維持シタシト云フニ在リ尚此ノ點ニ付テハ英政府ノ態度ニ付「バトラー」次官ヨリ説明ノ次第ハ政府ヘ報告シ置ケリト述ヘ置キタリ

三、[2] 次テ外相ハ通商交渉問題ニ觸レ如何ニナリ居ルヤトノコトナリシニ付本使ヨリ最近ノ經過ヲ述ヘ經濟戰爭省ニ於テ英側ノ提案ト共ニ日本側ノ希望スル通商全般ノ問題ニ付論議スルコトトナリ交渉開始セラレタル次第ナリ何等故障生シタル場合ニハ外務省側ヨリ然ルヘク斡旋ヲ得度シト述ヘタル處外相ハ是非圓滿ニ交渉ヲ進メ行クコトヲ希望ス尚此ノ方面ニ付テハ「バ」次官ト密接ノ聯絡ヲ保チテ戴キタク而シテ此ノ交渉ニ付テハ吾々ノ常ニ重要視スル日本全般ノ政治的方面ヲ見失ハサル樣(lose sight of political side)希望スト述ヘタリ

四、本使ヨリ貴外相ハ日英國交ニ觸レラレタルカ新内閣ニハ從來ノ反對黨ヨリモ入閣者アリタル次第ナルカ日英關係ニ對スル方針ハ如何ト訊ネタル處外相ハ此ノ點ハ從來ト何等變化無ク兩國ノ關係ヲ改善增進シタシト謂フニ在リ自分モ引續キ外相ノ地位ニ在リテ此ノ事ニ斡旋シ得ルコトヲ喜フモノナリ尚「バトラー」モ同シ地位ニ殘ルコトナリ喜ヒ居レリ就テハ此ノ點ハ有田外相ニ充分御取次願度シト答ヘタリ

五、右會談後「カドガン」トモ面會シ最近日英交渉案件ニ付談シ置ケリ

431

昭和15年5月18日　在独国来栖大使より有田外務大臣宛(電報)

蘭印現状維持に影響ある措置・宣言を実施せぬよう独国外務次官へ非公式要請について

ベルリン　5月18日前発
本　省　5月18日夜着

第四九六號(極祕、至急)

貴電第二八〇號ニ關シ(蘭印現狀維持ニ關スル件)

「リ」外相ハ大本營ニ赴キ居リ急速ニ面會不可能ニ付不取敢本十七日「ワイゼツカー」次官ニ面會御訓令ノ趣旨ニ依リ懇談セリ同次官ハ終始多大ノ注意ヲ以テ傾聽シ居リタルカ兩三日中ニ「リ」ト聯絡ノ上的確ナル返事ヲ當地ニ於テ貴大使ニ申上クルカ或ハ「オツト」大使ヲ經テ閣下ヘ申上

クヘシト述ヘタル後自分ノ率直ナル感シヲ申述フルニ蘭印問題ハ「タイフーン」ノ中心ノ如キモノニテ却テ靜カナルニアラサルカ卽チ蘭印ニ利害關係ヲ持ツ主ナル國々カ渦卷キ居リ其ノ中心ハ至ツテ平靜ト思ハル何ノ途蘭印ニ付日本ニ不利益ナル事柄カ起ルトスレハ夫ハ東亞ニ於ケル他ノ問題ニ付テモ日本ト利害關係ヲ異ニスル國々(英、米ヲ指スモノト認ム)ヨリ來ルモノト思ハルト述ヘタリ

伊、蘇、米ヘ轉電セリ

伊ヨリ英、佛ヘ轉電アリタシ

432　昭和15年5月18日　在バタビア斎藤総領事より有田外務大臣宛(電報)

蘭印問題に関する対蘭通告を蘭印総督へ通報し善処方要請について

別　電　昭和十五年五月十八日発在バタビア斎藤総領事より有田外務大臣宛第三六七号

右通告文

バタビア　5月18日後発

本　省　5月18日夜着

第三六六號(館長符號扱)

貴電第二〇二號ニ關シ(日蘭印國交調整ノ件)

本十八日東亞局長ノ案内ニテ總督ト會見先ツ帝國政府ノ同情ノ意ヲ傳達シタルニ總督ハ謝意ヲ表シタリ次イテ本官ヨリ本件訓令ヲ執行スルニ至リタル事情ヲ述ヘ爲念別電第三六七號ノ書面(別電末尾 as below ノ次ニ來ルヘキ十三品目竝ニ數量ハ電報中ヨリ省略セリ爲念)ヲ手交シタルニ總督ハ一讀ノ上右本國政府ニ傳達方ヲ約シタリ

尙其ノ際總督ハ本官申入ノ次第ハ新聞記者ニ知ラシメサル樣配慮方希望シ居タリ爲念

「スーラバヤ」「メナド」「メダン」ヘ暗送セリ

(別　電)

バタビア　5月18日後発

本　省　5月19日前着

第三六七號

The Japanese Minister at the Hague, Mr. Itaro Ishii has been instructed to make the following representation to the Government of the Netherlands:

"The situation which the Japanese Government apprehended has unfortunately come into existence and the conjuncture has spread to your country, for that the Japanese Government is (ママ) wishes to express the feeling of deep sympathy to the Government of the Netherlands.

The Japanese Government believes that the assurance given by the Netherlands Minister for Foreign Affairs that the Netherlands Government had not sought nor would seek, in future, any country's protection of the Netherlands East Indies and further that the Netherlands Government was determined to refuse any offer of protection or intervention of any kind which might be made by any country would be fulfiled.

If the general commercial relations between two countries including trade, enterprises, investment and entry of nationals etc. are left to themselves without being adjusted it is apprehended that the dissatisfaction of both countries will be deepened and consequently there is possibility the public opinion of both countries, influenced by false rumours and propaganda, might affect adversely the traditional and friendly relation existing between both countries.

Under these circumstances, the Japanese Government deems it advisable for both parties to settle, as soon as possible, the pending questions pivoting up on the Netherlands-Indies and thereby remove any trace of grievances in order to cope with the future international situation brought with difficulties.

1. Therefore, the Japanese Government request that the Government of the Netherlands would impart her intention with regard to the basic items to be discussed for understanding between Japan and the Netherlands submitted by the Japanese Minister at the Hague and further that in taking the present situation in the Netherlands into consideration and with a view to precipitating an amicable settlement, she would agree to transferring the negotiations to the Netherlands-Indies.

2. The Netherlands Minister for Foreign Affairs

was good enough to give the Japanese Minister at the Hague the assurance that the Government of the Netherlands would not take measures of any kind against the exportation to Japan of Netherlands-Indies products which are essential to Japan. The Japanese Government has accepted this assurance with gratitude.

The Japanese Government has the intention to promote the friendly and close relation with the Netherlands-Indies and the desire that this will not be disturbed under whatever circumstances. These sentiments, the Japanese Government believes, will be shared also by the Government of the Netherlands.

In the light of this facts, the Japanese Government proposes that the two governments should not take, under all circumstances, any steps which might be construed as impeding the trade between Japan and Netherlands-Indies. Above all, the Japanese Government desires that the governments of the Netherlands and the Netherlands-Indies would give, as soon as possible, assurance in writing that they will not take any measures which will hamper the exportation to Japan of minimum quantity of the goods mentioned as below.

433

昭和15年5月20日　有田外務大臣より在本邦バブストオランダ公使宛

蘭印産物資十三品目の対日年間輸出量につき確約方要請について

通六機密第一〇號

以書翰啓上致候陳者閣下ハ本月十六日蘭領印度産物資ニ關スル本大臣トノ會談ニ於テ蘭印總督ヨリ蘭印トシテハ石油ハ素ヨリ錫、護謨其他ノ本邦必需原料品ノ對日輸出ヲ制限スル意嚮ナク日蘭印間ノ一般經濟關係ヲ從來通リ持續スルコトヲ希望スル旨電報越セル趣ヲ述ベラレタルガ帝國政府ニ於テモ總督ノ通報ヲ謝スル旨ヲ通知スルト同時ニ右ニ關連シ從來蘭印ヨリ帝國ヘ輸出セラレ居ル物資ハ多大多様ナルトコロ差當リ帝國ノ特ニ必要トスル別紙記載十三品目ニ付蘭印政府ニ於テ右ヲ今後毎年少クモ別紙記載數量ヲ將來如何ナル事態ニ於テモ日本ニ輸出スルコトノ確約ヲ與ヘラ

レンコトヲ要請スルノ光榮ヲ有シ候

本大臣ハ前記總督言明竝ニ獨蘭戰爭開始後蘭印總督ニ賦與セラレタル廣汎ナル權限（本年五月十一日附本大臣宛貴翰參照）ニ鑑ミ右帝國政府ノ要請ニ對スル蘭印總督ノ應諾カ出來得ル限リ速ニ閣下ヨリ文書ヲ以通報セラレンコトヲ希望且期待スルモノニ有之候

右申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬　具

昭和十五年五月二十日

外務大臣　有田　八郎

和蘭國特命全權公使

「ゼネラル・イュー・セー・パブスト」閣下

（別　紙）

一、錫（鑛　石　共）	三、〇〇〇瓲	
二、護　謨	二〇、〇〇〇同	
三、鑛　油	一、〇〇〇、〇〇〇同	
四、「ボーキサイト」	二〇〇、〇〇〇同	
五、「ニッケル」鑛	一五〇、〇〇〇同	
六、滿　俺　鑛	五〇、〇〇〇同	
七、「ウオルフラム」	一、〇〇〇同	
八、屑　鐵	一〇〇、〇〇〇同	
九、「クローム」銑鐵	五、〇〇〇同	
一〇、工　業　鹽	一〇〇、〇〇〇同	
一一、「ヒ　マ　シ」	四、〇〇〇同	
一二、規　那　皮	六〇〇同	
一三、「モリブデン」	一、〇〇〇同	

編　注　本文書は、昭和二十六年六月、外務大臣官房文書課作成「外交史料　日、蘭印經濟交渉ノ部」より抜粋。

434

昭和15年5月20日　有田外務大臣より在英国重光大使、在バタビア斎藤総領事宛（電報）

対日供給を確保すべき蘭印産物資十三品目の年間必要量につき蘭印政府からの確約取付け方針通報

本　省　5月20日後4時30分発

合第一〇五七號（至急、極祕）

在蘭石射公使宛往電第一四九號以下ニ關シ
一、在蘭公使宛往電第一五二號ノ數字左ノ通リ訂正アリ度
（單位「キロ」噸）
㈡護謨二萬㈣ボーキサイト二十萬㈤ニツケル鑛十五萬㈥
工業鹽十萬㈢規那皮六百
二、本件數字ハ全テ一ケ年分ナルカ我方トシテハ此等數量
（情勢ニ依リ增減アルヘシ）カ今後毎年日本向輸出方蘭印
政府ヲシテ確約セシメ度次第ナリ（此點前電ノ趣旨ヲ變
更セリ）
三、往電合第一〇三二號蘭印總督ノ石油ハ素ヨリ錫、護謨及
其他ノ原料品ニ就テモ其對日輸出ヲ制限スル意向ナシト
ノ言明竝ニ「フアンモーク」經濟長官ノ言明（バタビヤ
發本大臣宛電報第三二〇號（三三〇カ））ニ依リ在蘭公使宛往電第一
五一號ノ目的ハ一應達成セラレタルヤニ認メラルルモ我
方トシテハ右以外ニ尙在蘭公使宛往電第一五二號ノ數量
ニ關シ蘭印總督ヨリ上記三ノ趣旨ノ確約ヲ文書ヲ以テ取
付クル要アルニ付本大臣ニ於テハ貴地ノ交渉ト併的ニ當
地ニ於テ「パ」公使ト交渉ノ豫定ナリ御含迄
本電宛先、英、バタビヤ
英ヨリ佛、伊ヘ轉電アリ度
伊ヨリ獨ヘ轉電アリ度
米ヘ轉電セリ

435　昭和15年5月20日　在独国来栖大使より有田外務大臣宛（電報）

蘭印問題に関する対蘭申入れを執行した旨の石射公使電報転達

ベルリン　5月20日後発
本　省　5月21日夜着

第五一八號
伊發本大使宛電報
蘭發大臣宛電報（十四日午後）
第三一四號
貴電第一四九號乃至第一五一號（第一五二號ハ未着）第一五
三號、第一五四號及第一六七號御訓令ハ本日申入レ執行セ
リ問題ノ重要性ニ鑑ミ「スヌツク」代理ニ會見ヲ要求シツ
アリタルカ本十四日午後三時漸ク會見約束出來タル次第
ナリ會談要領別電ス右不取敢

本電別電第三二〇號及第三二三號ト共ニ英、佛、伊、米ヘ轉電セリ
伊ヨリ獨ヘ轉電アリタシ
本電前電ト共ニ「バタヴィア」ヘ轉電アリタシ

編注　本書第440文書および同別電として採録。

436　昭和15年5月21日　在独国来栖大使より有田外務大臣宛(電報)

蘭印現状維持に関するわが方非公式要請への独国回答について

付記　昭和十五年五月二十二日
右回答に関する有田外相・オット独国大使会談要領

ベルリン　5月21日後発
本　省　5月22日前着

第五二七號(大至急)
往電第四九六號ニ關シ
本二十一日正午求メニ依リ「ワイツゼツカー」次官ヲ往訪セル處蘭領東印度ノ件ニ付昨夜「オットー」大使ニ貴大臣ヘ申述フル様電訓セリト告ケ獨政府ハ四月十五日有田大臣ノ蘭印ニ關スル「プレスインタービユー」ヲ承知シ居リ當時特別ニ是ニ關シ獨政府ヨリ意思表示(aeusserung)ヲ期待シ居ラルルモノトハ考ヘス其ノ儘ト爲シ置キタルカ其ノ後日本新聞ノ記事ニ徴シ又特ニ過日貴大使ヨリ御懇談ノ次第モアリ獨政府ハ此ノ際意思表示ヲ爲スコト適當ト認メ茲ニ日本政府ヘ御答ヘスルコトトセル次第ニテ其ノ要旨ハ一體今回ノ和蘭進軍ハ英佛カ和蘭ヲ通シ「ルール」地方ヲ攻撃セントシタルニ依リ是ニ對處スル爲實行セルモノナリ原因此處ニ在リ問題カ全然歐洲的(ganz europaeisch)ノモノニシテ海外領土(uebersee)ノ問題ニハ關係無シ依テ獨逸ハ海外領土ノ問題ニハ關心ヲ有セス英佛側カ蘭領西印度ニ對シテ取リタル行動竝ニ右兩國カ米國ト策應(zusammenspielen)シ居ルコトニ鑑ミ日本カ疑念(misstrauen)ヲ持タルルコトハ獨側トシテ良ク解ル次第ナルカ獨逸ハ東亞ニ於ケル日本ノ主張ヲ良ク諒解シ從來通リ日本トノ友好關係ヲ維持發展セシメ行ク考ナリ云々
トノ趣旨ナリト說明セリ尙其ノ際「ワ」次官ハ獨側ハ是ヲ

公表スル積リナキモ日本側ニ於テ公表セラルルヤ否ヤハ「オツトー」カ有田大臣ト御話シスレハ宜シカラント述ヘ居タリ

伊、蘇、米ヘ轉電セリ

伊ヨリ英、佛ヘ轉電アリタシ

（付　記）

大臣獨逸大使「オツト」會談要領

（昭和一五、五、二二　歐二）

二十二日在京獨逸大使「オツト」有田大臣ヲ來訪シ過日蘭印問題ニ關スル有田大臣聲明ノ寫ヲ受領セル處本件ニ關シ帝國政府ニ於テ別段獨逸政府ノ態度表明ヲ求メラレタル次第ニモ非ス又獨逸政府トシテ右表明ノ必要モ無之ト考ヘタルモ去ル十七日來栖大使ヨリ獨逸政府ニ對シ申出ノ次第モアリ又帝國新聞紙論調ニ依ルモ右表明方ヲ求メ居ルカ如ク認メラルルヲ以テ茲ニ申上クル次第ナリト前提シ

政府訓令ニ基ク趣ヲ以テ今次和蘭ニ於ケル戰鬪行爲ハ英佛兩國カ和蘭ノ中立ヲ侵害シテ獨逸攻擊ヲ企圖シタル爲獨逸政府カ對抗措置ヲ採リシ結果ニ起因スルモノニシテ純然タル歐洲事件ナリ右ハ和蘭ノ海外植民地トハ何等關係ナク獨逸政府ニ於テハ和蘭ノ海外領土問題ニ對スル干與ニ何等關心ヲ有セス（have no interest to deal with the overseas problems）

獨逸政府ハ有田大臣聲明ノ通リ帝國政府カ重大ナル關心ヲ以テ蘭印問題ヲ注視セラレ居ルコトヲ充分了解セリ現ニ英佛兩國カ米國ノ同意ヲ得テ蘭領西印度ヲ占領シタルハ右帝國ノ關心ヲ理由付ケルモノト思考ス獨逸政府ハ右歐洲諸國トハ異リ從來常ニ帝國ニ對スル友好政策ヲ堅持シ來レルモノニシテ右政策ハ蘭領東印度ニ對スル帝國ノ利益擁護ニ裨益スルモノナリト信スル旨述ヘタリ

437

昭和15年5月21日　在バタビア斎藤総領事より有田外務大臣宛（電報）

蘭印の現地情勢に鑑み日本の南進は蘭印原住民の歓迎するところである旨報告

バタビア　5月21日後発

本　省　5月22日前着

第三八七號

今次獨逸軍和蘭侵入ノ傳ヘラルルヤ蘭人側ノ極度ニ興奮シタルニ反シ母方タル土人ニ血ノ繋リ深キ少數ノ「ハーフ、キヤスト」ヲ含ム一般土人民衆ハ極メテ冷淡ナル態度ヲ□（一字不明）シ居タルカ他面新聞記者政黨人其ノ他智識階級ノ間ニ於テハ累次既報ノ通リ相當機微ナル動キアリ印歐黨土人官吏同盟等現在ノ政治機構ノ下ニ利益ヲ受ケ居ル一部御用政治家軍人官吏等カ和蘭ニ忠誠ヲ誓ヘルヲ除キ他ノ「インテリー」ノ大部分ハ寧ロ和蘭ノ危機ニ祝盃ヲ擧ケ此ノ機ヲ逸セス「インドネシア」ノ完全獨立ト迄ハ行カストモ眞正議會ノ獲得等何カ土人側ノ利益ヲ增進セントノ希望ヲ有シ居ルコトハ土人新聞ノ論調其ノ他ノ聞込ニ依リ明カニ看取セラル然ルニ一方當領政府當局ノ土人ノ言論集會等ニ對スル彈壓ノ一層ノ强化（往電第三二六一號竝第三〇五號參照）ハ三百年來白人ノ壓制下ニ馴致セラレタル一般土人民衆ノ氣力ト相俟ツテ今直ニ彼等カ自力ヲ以テ更生ノ途ヲ開クコトハ到底豫想セラレサル所ナルモ何等外力ノ當領ニ及フコト又ハ印度獨立ノ如キ外部情勢ノ大變化アランカ之ヲ切掛ケニ事ヲ起シ民族ノ解放ヲ計ラントノ根强キ議論カ潛行的ニ行ハレ居ルハ事實ニシテ日本ノ南進ニ對スル希望的觀測カ蘭人側竝ニ一般華僑間ニ於ケル恐怖的憶測ト相俟ツテ目下一般土人間ニ此ノ種流言蜚語ノ盛ニ行ハレ居ル現狀ナル

要スルニ長年蘭人ノ政治的壓迫ト華僑ノ經濟的支配下ニ呻吟スル土人民衆トシテハ現狀ノ改變ハ彼等ニ何等カノ幸福ヲ齎スモノナリトノ信念ヲ有スルコトハ否ミ難ク日本ノ南進ハ彼等ノ寧ロ歡迎スル所ニシテ從テ最近ノ蘭印政府ノ體面態度ノ好轉振リニ鑑ミ結局日本カ蘭印側ニ拜ミ倒サレテ簡單ニ妥協スルカ如キコトアルヲ最モ虞レ居ルモノト認ラル

438　昭和15年5月23日　在バタビア斎藤総領事より有田外務大臣宛（電報）

蘭印産物資十三品目の必要供給量訂正と在留邦人への待遇改善を蘭印政府へ申入れについて

バタビア　5月23日後発
本　省　5月23日夜着

第三九六號

本官本二十三日東亞局長ヲ往訪シ貴電合第一〇五七號㈠御來示ノ十三品目數量訂正方申入レ置キタルカ其ノ際本官ヨ

リ最近蘭印政府當局ノ各般ノ取締日ト共ニ益々嚴重且煩瑣トナリ我在留民ノ居住乃至營業ニ多大ノ不便ト不快ヲ感セシメ一部邦人中ニハ引揚ヲ考慮シ居ル者サヘアル處斯テハ過般兩度ニ亘ル有田聲明其ノ他ニ依リ闡明セル我方ノ公正ナル態度ニ對シ蘭印側ニ於テ依然解ケヤラヌ底流アリト思ハルルモ已ムヲ得サルヘク蘭印側ニ於テ今後共斯ル態度ヲ持續セラルルニ於テハ徒ニ我方在留民ノ感情ヲ刺戟シ面白カラサルニ付此ノ際貴政府當局ノ考慮ヲ促ス次第ナリト述ヘ置キタリ

439　昭和15年5月27日　在バタビア斎藤総領事より有田外務大臣宛（電報）

蘭国政府の新通貨制度実施に関し対処振り請訓

バタビア　5月27日前発
本　省　5月27日後着

第四〇八號（至急、極祕、館長符號扱）
往電第四〇四號ニ關シ[1]
一、本二十五日夜米國總領事本官ヲ來訪劈頭今次和蘭政府ノ採リタル兩建制度ノ結果新ニ磅「リンク」トシタルコトハ蘭印ノ經濟上ノ現狀維持ノ變更ト認ムルヤ否ヤト質問シタルニ依リ本官ハ帝國政府ヨリ未タ何等ノ意思表示ナキモ本官個人トシテハ現狀維持ノ變更ト認ムト述ヘタルニ同總領事ハ實ハ磅「リンク」ノ結果英國側ヘノ蘭印物資ノ盛ナル流出カ豫想セラレ其ノ結果米國ノ必要トスル物資モ入手難ニ陷ル懸念アリ自分トシテモ右影響ニ付華盛頓政府ニ卑見具陳ノ意嚮ヲ有スルモノナリト述ヘタルニ付本官ハ我方トシテモ蘭印ノ磅「リンク」ニ多大ノ關心ヲ有スルモノニシテ萬一蘭印物產カ經濟上ノ原則ニ從ヒ磅「ブロツク」ニノミ流出シ我方カ入手難トナルカ如キコトハ到底堪ヘ得サルモノニシテ此ノ點貴方ト同一立場ニ在ルモノナルカ斯ノ如キ事態妨止（防カ）ノ爲何等カ名案アリヤ日米兩國ノ蘭印トノ取引カ從前通リ維持セラレ且右ノ結果蘭印モ救ハルルカ如キ名案アルニ於テハ我方ニ於テモ米國側ト協調ヲ辭スルモノニアラサルヘシト思考スト述タル處米國總領事ハ蘭印カ磅「ブロツク」ニ加入スル結果カ米國產業ニ對スル非常ナル打擊トナルコトヲ頻リニ憂慮シ出來得ルナラハ本問題ニ付自分個人トシテハ日本側ト「パラレル」ノ行動ヲ採リ得レハ結構ナリトノ

意嚮ヲ有スル旨洩シ居タリ

二、(2) 蘭印磅「ブロツク」加入ノ及ホス影響ニ付テハ本省ニ於カレテモ愼重御考究ノコトト思考スル處右ノ結果我方ハ英佛ニ比シ實際上差別待遇ヲ受クルコトトナリ蘭印物產カ英佛側ヘ流出スルコトハ火ヲ見ルヨリ明カニシテ蘭印側ノ保障ハアルモ我方ノ必要トスル重要物資ノ入手難ニ結局陷ルヘキハ之亦想像ニ難ラサル所ニシテ同時ニ我方ノ蘭印ヨリノ輸入モ英佛ニ比シ約二割五分ノ「ハンデイキヤツプ」ヲ受クルノミナラス從來ノ日蘭印貿易カ我方ニ受取勘定ノコトヨリ結局貿易「バランス」モ「ブロツク」サルル惧モアリ且又昨今本邦品ニ對スル「ライセンス」ノ發給ハ增加シツツアルモ近キ將來ニ於テハ盾貨維持ノ爲我方ヨリノ輸入ヲ「チエク」スルカ如キ態度ニ出ツヘキハ銀行家ノ意見一致スル所ナリ

更ニ之ヲ政治的ニ觀察スル場合蘭印ノ磅「ブロツク」加入ノ結果(兩建制度ハ實行不可能ニシテ窮極ニ於テ蘭印ハ磅「ブロツク」ニ引摺リ込マルニ至ルヘシ)ハ英佛ノ蘭印ニ對スル政治的勢力ノ進出ヲ意味シ倫敦ニ於ケル和蘭國政府ニ對スル英佛側ノ壓迫ト呼應シ蘭印政府ハ結局英佛側ノ意思ニ甘ンセサルヲ得サルコトトナリ右カ蘭印ノ政治的現狀ノ變更ヲ誘致スルハ當然ナルヘシ

三、(3) 依テ此ノ際我方トシテハ獨自ノ立場又ハ米國側意嚮ヲ質シタル上出來得レハ之ト協調シ蘭印ノ磅「ブロツク」脫退ヲ勸告スルコト肝要ナリト思考ス而シテ之カ方策トシテハ蘭印政府ハ既ニ五月十日ノ爲替基準ヲ維持スヘシト聲明シタルコトモアリ蘭印カ戰前弗「ベーシス」ナリシヲ以テ飽迄之ヲ維持スルコトヲ要求シ若シ從前ノ百八十八盾半ヲ維持シ得ストセハ夫レヲ例ヘハ磅七盾六十仙ニ相當スル二百三、四十盾ニ切下クルコトハアリ得ルトスルモ依然トシテ弗「ベーシス」ヲ維持シ少クトモ磅「ブロツク」ヨリ脫退方要求スルニ在リ之ニ依リ我方輸出代金ノ弗ヘノ回收ヲ確保スルト同時ニ爲替相場ノ安定ヲ期シ得ヘク且又御電訓ノ切下ケハアルモ從前通リ日、蘭印間貿易ハ何等阻害セラレサルコトトナルヘシ

四、就テハ本問題ノ及ホス影響甚大ナルニ鑑ミ至急政治的竝ニ經濟的兩方面ヨリ充分御考究ノ上何分ノ儀御回電ヲ請フ

440

昭和15年5月31日　在独国来栖大使より
有田外務大臣宛（電報）

蘭印問題わが方申入れへの蘭側回答振りに関する石射公使報告

別　電　昭和十五年五月三十一日発在独国来栖大使より有田外務大臣宛第六〇二号

右続報

ベルリン　5月31日後発
本　省　5月31日夜着

第六〇一號

蘭發大臣宛電報

第三二〇號

貴電第一四九號乃至第一五一號ノ趣旨ノ要點ヲ適宜英文口上書ニ取纒メテ持參シ敷衍説明ヲ加ヘ會談後之ヲ「ス」ニ手交セリ

「ス」次官ハ本年四月十六日「クレフエンス」外相ノ貴使ニ對スル言明ハ日本政府ノ所信ノ通リ今回ノ危難ニ拘ラス蘭國政府ノ恪守スル所ナルヲ代理外相トシテ確認ス和蘭本國カ交戰國トナリタル以上國際法上植民地ハ交戰國ノ一部ヲ爲スト雖和蘭政府ハ事實上植民地ヲ中立且現狀維持ノ狀態ニ存續セシメントスル決心ナリト言ヘリ依テ本使ハ貴電第一六七號ノ趣旨ニ依リ「キユラソウ」及「アルバ」島問題ヲ提起シ又十一日附「パブスト」公使來翰ト事實トノ相違ヲ指摘シ右領地ノ「ステータス」ハ蘭印ト異ナル次第ナルヤト尋ネタルニ「ス」ハ全ク同一ナリ然レトモ同地ニハ蘭側ノ兵力ナク而モ多數獨逸人居住シ同地ノ「ベネゼラ」石油精油場危殆ニ瀕シ且獨逸軍艦カ之ヲ狙ヒ居ル旨確報アリタルニ付本國危難ノ場合ト同樣咄嗟和蘭政府ヨリ英佛ニ一時的援助ヲ求メタル次第ニシテ危險去リ次第英佛兵ハ撤退スルモノナリト言ヘルニ付然ラハ理論上ヨリ言ヘハ蘭印ニ付テモ同樣ノ危險發生ノ場合和蘭政府ハ他國ノ援助ヲ求メラルルコトナルカ如何ト問ヒタル處「ス」ハ自分ハ實際問題以外ノ純理ヲ基礎トシテ御答ヘシタクナシ蘭印ニハ六萬ノ兵力アリテ六七千人ノ在留獨逸人ハ容易ニ之ヲ制壓濟ナリ又獨逸カ如何ニ强クトモ蘭印ニ手ヲ附ケ得ル可能性ナク日英佛ヨリノ危險アル筈ナキニ他國ニ對シ援助要請ノ問題ハ斷シテ起リ得サルモノナリト言ヘリ（本日往訪ノ矢口ニ對シ政務局長ハ同樣ノ趣旨ヲ説明セル由）

（別　電）

ベルリン　5月31日前発
本　省　5月31日後着

第六〇二號
蘭發大臣宛電報[1]
第三二三號

二、貴電第一五〇號一般國交整調問題ノ回答促進ノ件、商議ヲ「バタヴィア」ニ移ス件及其ノ旨蘭印政府ニ訓令スルノ件ハ「ス」ハ政府ニ報告シ其ノ訓令ヲ受ケタル上御返事スヘシト云ヘリ貴電第一五三號ノ我方具體的案ノ骨子ハ別ニ書面トセス口頭ヲ以テ説明シ置ケリ本使ハ本項説明中貴電第一五四號「ク」外相ノ放送演説ヲ指摘シ和蘭植民地ノ資源ヲ聯合國共同ノ目的ノ通リニ Place at the disposal ト云フ以上日本ノ必要トスル物資ノ買取ハ阻害サルルコトトナル處其ノ趣旨ニハアラサルヤト問ヒタル處「ス」ハ「ク」外相ノ演説ニ付テハ自分ハ相談ヲ受ケ居ラサルカ右ハ對外宣傳ノ爲ノ美辭麗句ナルコト疑ナク蘭印貿易ニ關スル政策ノ問題トハ別ナリト信ス曩ニ御話シタル蘭印ノ中立及現狀維持ノ政策ハ其ノ貿易政策ニモ當嵌ルモノト承知アリタシト云ヘリ

三、[2]貴電第一五一號日蘭印間ノ貿易阻害ヲ目的トスルカ如キ措置ヲ採ラサルコトニ双方確約ノ件及不取扱(敢カ)特定蘭印産品（口上書中ニ列擧セリ）ノ日本向輸出ニ阻害的措置ヲ採ラサルコトヲ書面ニテ確約方ノ件ハ「ス」ハ之又政府ニ報告シ其ノ訓令ヲ受ケタル上通知スヘシト云ヘリ其ノ際右産品ノ數量カ問題トナリタルヲ以テ本使ハ數量ニ付テハ今ノ所不明ナルカ日本政府トシテハ和蘭カ自家用ノ爲必要トスル數量迄ヲモ買取ラントスル趣旨ニハ非スト信スル旨答ヘ置ケリ

四、「ス」ハ女皇陛下及政府ノ英國避難ハ假令和蘭本國全土カ獨軍ノ占領ニ歸スルモ和蘭政府ト植民地トノ聯絡ヲ從來通リ維持センカ爲ナリト言ヒ尚自分ハ何時職務執行不可能トナルヤモ知レス從テ貴使御申上ケノ諸事項ニ付テモ或ハ自分ヨリ回答出來ナクナリ政府ヨリ御返事スルコトトナルヤモ知レスト附言セリ（本電半ハ起案中蘭軍降伏ノ報アリ）

441

昭和15年5月31日　在独国来栖大使より
有田外務大臣宛（電報）

蘭印問題は今後は在京蘭国公使ないしは蘭印政府と交渉すべき旨の石射公使意見具申

ベルリン　5月31日前発
本　省　5月31日夜着

第六〇五號
蘭發大臣宛電報
第三二七號
往電第三二三號ニ關シ
一、獨軍侵入以來ノ當國外務省ハ自國存亡ニ關スル重大時ニ忙殺サレ面會ヲ申込ムモ目指ス相手ハ容易ニ摑ラス漸ク約束カ出來テ本使及館員カ往訪シテモ政務局長ノ如キハ三分トハ席暖マラサル程ニテ貴電御訓令ハ臨終ノ取込中ニ掛取リニ行キタル形トナレリ幸ニ「スヌツク」次官ヲ捉ヘ割合ニ長時間話カ出來タルモ實ハ當方ノ實情上執行ニ適セサリシ訓令ナリキ御參考迄
二、往電第三二六號ノ密使カ無事着英セハ本使ノ本件申入レハ一應「クレフエンス」外相ニ通スル次第ナルカ左リトテ本件交渉ヲ在英大使館ニ於テ「ク」トノ間ニ繼續スルコトハ便利ナリトハ言ヘ資格ノ問題モアルヘキニ付此ノ上ハ「パブスト」公使及蘭印政府ニ交渉セラルルコト可然ト存ス
三、蘭印ニ對シテハ蘭本國ノ被占領狀態ニ拘ラス從來貴大臣ノ御聲明ノ通リノ我政策及態度ニ今後モ變更ナキモノト存スルカ故ニ重ネテ卑見上申ヲ避クルモ我方トシテハ此ノ際一層慇懃ナル態度ニテ蘭印側ニ接觸スルコト却テ效果的ナルコトヲ信ス尙我方言論ノ放縱サヲ愼ムコト今後特ニ必要ニシテ然ラサレハ空氣惡化ノ一途ヲ辿リ我方カ對南方平和政策ニ意外ノ破綻ヲ招クヲ恐ル
伊ヘ轉電セリ
伊ヨリ英、佛ヘ大臣ヨリ「バタヴイア」ヘ轉電アリタシ

442

昭和15年5月31日　在独国来栖大使より
有田外務大臣宛（電報）

石射公使が蘭国政府へ手交した蘭印問題に関する口上書について

ベルリン　5月31日前発
本　省　5月31日夜着

第六〇八號
石射公使ヨリ[1]
往電第三一七號ニ關シ
本使ヨリ「スヌーク」大臣代理ニ手交シタル口上書左ノ通リ

Note Verbal

1. On the 16th of April 1940 H. E. the Foreign Minister of the Netherlands formally stated to the Japanese Minister in the Hague that the Netherlands Government would not seek in the future any country's protection of the Netherlands East Indies and that the Netherlands Government were determined to refuse any offer of protection or intervention of any kind which might be made by any country.

The Japanese Government believes that the Netherlands Government is determined to remain true to the above quoted statement in spite of the dreadful adversity the Netherlands is now confronting with for which the Japanese Government can not help feeling deepest sympathy.

It will, however, be appreciated by the Japanese Government if its above-mentioned belief can be confirmed by the Netherlands Government at this moment.

2. On the 2nd of February 1940 the Japanese Minister in the Hague under instructions from his Government proposed to the Foreign Minister of the Netherlands "basic items to be discussed for an understanding between Japan and the Netherlands."

Japanese Government is anxious to be favoured as soon as possible with the Netherlands Government's affirmative response to the proposal and wishes in view of the present situation in Holland to propose that the concrete negotiations along the proposed line be conducted in Batavia and that the East Indies Government be instructed to that effect by the Netherlands Government.[2]

In the view of the Japanese Government the mutual

grievances between Japan and the East Indies in the matters of trade enterprises business and industrial and entry of nationals might tend any time to reflect deplorably upon the traditional friendship between the two should such grievances be left long without being straightened out because dissatisfied public opinion of both countries easily constitutes a congenial field to play harm in for inimical publicity and propaganda which always thrive upon unfilled gaps in international relations.

Under these considerations the Japanese Government is only too anxious to see the two countries by settling in an early future the questions between them pending on the East Indies launch upon the future with lasting and stable friendship clear of grudges.

The Japanese Government wishes that the Netherlands Government will meet with the proposal of the Japanese Government with the same foresight.

The concrete proposals on the questions of trade enterprises and entry of nationals will be introduced by the Japanese Government before long.

3. The Japanese Government being aware, however that a conclusion of the above desired negotiations in Batavia would require some length of time takes the liberty to instruct its Minister in the Hague to state to the Netherlands Government as follows:—

Japanese Government begs to recall the intention of the Netherlands Government signified on more than one occasion to the effect that the Netherlands Government would not adopt any suppressive measures on the export to Japan of staple East Indies products needed in Japan.

(3) The above intention was much to the appreciation of the Japanese Government and has contributed a great deal to the promotion of friendly sentiment between the two countries. In the belief that the Netherlands Government shares with the Japanese Government the desire not only to keep thus fostered friendship undisturbed under any circumstances but also to further tighten such friendly relations between them the Japanese Government

proposes to the Netherlands Government that the two Governments firmly engage not to take any measures purporting to obstruct the trade between Japan and the East Indies and in the meantime earnestly wishes that the Netherlands Government be good enough to give the Japanese Government a written assurance that such measures as above will not be taken products and goods of the East Indies and to instruct concerning the export to Japan of the under mentioned the Government there to act accordingly.

1. Tin (ores inclusive)
2. Rubber
3. Mineral oils
4. Bauxite
5. Nickel ores
6. Manganese ores
7. Wolfram ores
8. Scrap irons
9. Chrome ores
10. Industrial salt
11. Castor seed
12. Cinchona bark
13. Molybdenum

443

昭和15年5月31日　在独国来栖大使より有田外務大臣宛(電報)

今後の蘭印問題交渉振りなどに関する石射公使の意見具申

ベルリン　5月31日後発
本　省　6月1日後着

第六一三號

石射公使ヨリ左ノ通リ

來栖大使宛貴電ノ御訓令拜承セリ之ニ關スル卑見左ノ通リ

一、和蘭政府カ倫敦ニ逃避セリト云フモ實ハ主トシテ各大臣ノミニシテ各省次官及夫レ以下ノ事務當局ハ大部分海牙ニ殘留シ居リ現ニ外務省ニ於テモ次官、政務局長、通商局長等ノ事務首腦部ハ海牙ニ在リ(尤モ文書及記錄類ハ或ハ倫敦ニ運ヒ或ハ燒棄シタル樣子ナリ)從テ逃避セル

政府ハ手足カナク具體問題ノ交渉ニ付テハ無能力ナリト思ハル故ニ本使カ倫敦ニ赴キ「クレフエンス」外相相手ニ話ヲスルモ往電第三一七號「スヌツク」次官ヘノ申入ヲ繰返シ先方ハ又復蘭印ニ照會シタル上返事シタシト答フル位カ關ノ山トナリ話ハ容易ニ進行セサルヘシト思ハル其ノ程度ノ交渉ハ本使及「ス」次官間ノ前記ノ交渉ノ次第ヲ土臺トシテ東京ニ於テ「パブスト」公使ヲ通シ回答ヲ迫ラルレハ可ナルヘク一方我方ハ蘭印總督ノ獨裁的地位ニ乗シ(我方將來ノ爲ニモ此ノ地位ヲ固ムル樣仕向ケルコト得策ト存ス)蘭印政府ニ對シテ交渉ノ主力ヲ注キ着々實際問題ノ話合ニ入ラルルコト適切ナリト存ス

二、蘭印總督及其ノ政府ハ高ク留マル習慣アルニ付蘭印政府相手ノ交渉ニハ在京大使又ハ大使級ノ大者ニ有力ナル「スタツフ」ヲ附ケテ特派セラルルコト然ルヘシト存ス

三、在蘭公使館ハ茲ニ公使館トシテ機能ヲ失ヒ此ノ事態ハ獨逸ノ占領中繼續スルモノト思ハル從テ本使ヲ始メ全員直ニ一時引揚方御下命アルモ可ナル次第ナルカ來栖大使發往電第五八七號ノ理由モアリ適當ナル館員ヲ殘スコト必要ナルヘシ

四、尤モ他ノ中立國公使等カ如何ニスルカ判明セサルニ日本ノミ率先シテ公使引揚ヲ行フコトハ早計ト存スルニ付他ノ中立國側(特ニ米、伊)ノ態度カ見當付ク迄此ノ儘暫ク見送リ適當ナル時期ニ引揚御下命アルコトト致度シ

五、以上卑見御採用アルナラハ本使ノ倫敦行御訓令ハ御取消ノ上後日引揚命令ト共ニ本使ニ歸朝御下命アルコトト致度シ其ノ他館員ノ身ノ振方ニ關シテハ卑見別ニ電報ス

六、以上及今明日中ニ更ニ發スヘキ拙電ニ對シ御回電ヲ受ケタル上本使ハ一應海牙ニ引返ス豫定

七、以上ハ來栖大使ノ意見ヲモ參酌ノ上ノ卑見ナリ

伊ヘ轉電セリ

伊ヨリ英ヘ轉電アリタシ

444　昭和15年6月6日　在本邦パブストオランダ公使より有田外務大臣宛

日蘭印経済関係調整問題および蘭印産物資十三品目の年間対日供給量に関する蘭側回答

(假　譯)

以書翰啓上致候陳者兩國政府間ノ經濟關係改善ニ付和蘭國

政府及日本國政府間ニ交換セラレタル書翰ニ關シ本使ハ先ヅ閣下ニ對シ和蘭政府ハ和蘭國カ當面スル戰爭ニ依リ惹起セラレタル困難ナル地位ニ關シ日本國政府ニ依リ示サレタル同情ヲ深ク多トスル旨ヲ通告スル光榮ヲ有シ候

我政府ハ又在「ハーグ」日本國公使ニヨリ提出セラレタル筈ノトコロ一九四〇年五月十八日在「バタヴィア」日本國總領事ヨリ蘭領印度總督ニ提出セラレ且一九四〇年五月二十日附閣下發書翰通六第一〇號ニ依リ補充セラレタル覺書ハ此ノ不幸ナル時ニ於テ相互ノ接觸及討議ノ缺除ノタメ三世紀來幸ニ和蘭國及日本國ノ間ニ存在スル傳統的友好關係ヲ害スヘキ緊張カ發生シ且其繼續スルヲ防止セントスル意圖ニ出テラレタルモノト思考致候

和蘭國政府ハ虛僞ノ報道及惡意ノ宣傳ト鬪フ必要有リトノ日本國政府ノ意見ニ全ク同感ニ有之候而シテ右目的ハ卒直且冷靜ナル雰圍氣ノ下ニ於ケル接觸ニ依リ最モヨク達成セラルヘク候

女皇政府ハ和蘭國及日本國間ノ關係特ニ蘭領印度及日本國間ノ關係ニ付テハ憂慮スヘキ何等ノ理由無之ト思考致候

右ニ關シテハ兩國間ノ經濟關係ハ一九三七年四月九日所謂「ハルト」石澤協定ニヨリ規律セラレタル事ヲ想起スルコト有益ナルヘク候當時双方ニ於テ或ル協定ノ適用ニ付キ常ニ口頭又ハ書面ニ依ル討議カ行ハレ候而シテ右討議ニ於テハ常ニ友好精神ニ支配セラレ其例トシテ本使ハ一九三八年和蘭國政府カ蘭領印度及日本國間ノ貿易尻ヲ漸次均衡セシムルコト竝ニ砂糖ノ如キ、土人產物ヲ出來得ル限リ買付方努力スヘキ旨ノ日本國ノ約束ニ關シ「ハルト」石澤協定ニ依リ作ラレタル可能性カ實現ヲ見ルコト遼遠ナリシ事實ニ付キ日本國政府ノ注意ヲ喚起スルヲ適當ト認メタルコトヲ指摘致候右申入ハ右輸出カ土人ニトリ絕大ナル重要性ヲ有スル事實ニ基キタルモノニ有之卽チ土人ノ購買力ハ多數ノ日本品ヲ輸入スル基礎ニ有之候

然ルニ其結果ハ和蘭國政府ニトリ余リ滿足ナラサリシニ不拘我政府ハ支那事變カ日本國ニ於ケル經濟情勢及「ハルト」石澤協定ノ右部分ノ實行ニ對シ甚大ナル影響ヲ及ボセリトノ日本國政府ノ說明ヲ受諾致候和蘭國政府ハ「ハルト」石澤協定ノ結果ヲ判斷スルニ當リテハ常ニ戰爭狀態ヨリ不可避的ニ生スル已ムナキ事情ヲ考慮致候依テ和蘭國政府ハ日本國政府ニ於テモ和蘭國政府モ亦戰爭ニ入リタル事

實ヲ考慮セラル、モノト確信致候而シテ右戰爭狀態ハ當然蘭領印度ノ經濟狀態ニ影響ヲ及ボスヘキモノニ有之候

然レドモ我政府ハ日本國ニトリテモ將又蘭領印度ニトリテモ兩國間ノ通商關係カ障碍ナク發展スルコトノ利益ナルコトヲ充分了解致候

和蘭國政府ハ蘭領印度ノ現狀維持ノ意義ニ關シ閣下カ爲サレタル聲明ヲ滿足ヲ以テ諒承致候我政府ハ右現狀ヲ無條件ニ維持スヘキ意圖ヲ再三再四確認致候右現狀維持ハ和蘭國ノ同盟國及他ノ太平洋沿岸國ノ利益ニ極メテ密接ナル關係ヲ有スルニ鑑ミ右相互ノ聲明ハ益々重要性ヲ有スルモノト認メラレ右ハ英國、佛蘭西及米國ニ依リ爲サレタル聲明ニヨリテモ明白ニ表明セラレ候

實ニ蘭領印度ノ地位ニ變更ナク且同國カ不斷ニ諸種ノ原料品及食料品ヲ以テ世界ヘノ供給ニ參加スルコトヲ繼續シ得ルコトハ實ニ世界ノ此ノ部分(東洋)ニ於ケル平和維持ノ爲極メテ重要ニ有之候

本使ハ次ニ閣下ニ對シ一九四〇年二月二日附在「ハーグ」日本國公使ノ書翰及貴翰ニ依リ補充セラレタル前記覺書中ニ含マレタル提案ニ對スル回答ヲ致スベク候

蘭領印度及日本國間通商關係

和蘭國政府及蘭領印度政府ハ既ニ決シテ蘭領印度及日本國間ノ通商ヲ制限セントスルカ如キ意嚮ナキコトヲ聲明セルカ寧ロ通商關係ノ漸進的發展ハ蘭領印度ニトリテモ將又日本國ニトリテモ利益トスル所ニ有之國際關係ノ變化シタル近時ニ於テ自己ノ輸出ヲ遂行スルニ非ザレバ其絶對必要トスル輸入品ヲ取得シ得ザル蘭領印度ノ國民ニトリテハ輸出ハ嘗テ如何ナル時代ニ於テモナカリシ死活的重要性ヲ有スルニ鑑ミ右ノ次第ハ愈明白ニ有之候

而シテ近年極度ニ不利トナリシ貿易尻ヲ均衡セシムルコトノ可能性增大スルトセバ夫丈更ニ日本品ノ輸入ヲ增進スルコト可能ナルヘク從テ和蘭國政府ハ過去ニ於テ常ニ日本向輸出ノ增進ニ努メタルニ鑑ミ和蘭國政府及蘭領印度政府ニ於テモ揭記セラレタル十三品目ニ付日本國政府ノ要求ニ係ル保障ヲ繰返スコトニ何等ノ反對無之候

而シテ右數量ニ關シ一切ノ誤解ヲ避クル爲メ閣下ハ附屬書中ニ右ニ關スル說明ヲ見出サルベク候

曩ニ發シタル聲明ニ合致スル前述ノ事項ニ加ヘ國際情勢ノ變化ニ依リ特ニ蘭領印度カ爲替管理上必要ナル規則ヲ採用

スル必要ニ迫ラレタルコトヲ附言致度候日本國政府ハ右措置カ就中圓及弗爲替維持ノ爲絶對ニ必要ナルコトヲ御了解相成モノト存候次デ蘭領印度ヨリ輸出セラルヽ產品ガ終局ニ於テ敵ノ手中ニ落ツルコトヲ防止スル爲及過度ノ輸出ガ蘭領印度自身ニ於テ缺亡(ヌカ)ヲ惹起スルコトヲ防止スル爲ノ措置ヲ執ル必要有之候然シ右ノ如キ措置ヲ執ルニ當リテハ外國トノ正常ノ通商ヲ阻害スルコトヲ能フ限リ勘(砂カ)カラシムベキ實施方法ヲ講究セラルヽコトト存候「ハルト」石澤協定ニ於テ意見ノ一致ニ達シタル詳細ナル討議ノ目的トナレル日本國原產品ノ輸入ハ正常ニ繼續セラル可ク現在ノ情勢ニ鑑ミ右輸入ガ減少スルヨリモ寧ロ增加ノ傾向ヲ有スルコトヲ希望シ得ベシト存候和蘭國政府ハ現在ノ事態ガ必然的ニ現行輸入規則ノ適用ニ變更ヲ必要ナラシムルコトヲ看過スルモノニ無之候然シ我政府ハ右規則ノ原則ガ其ノ當初ノ價値ヲ些モ喪失シタルモノニ非スト思考仕候

前述ノ如ク輸入ノ可能性ハ輸出ノ可能性ト表裏ヲ爲スモノニ有之從テ右輸出ヲ阻害スル一切ノ事態ハ蘭領印度ノ不利トナルト同時ニ又日本國ニトリテモ不利ノ結果トナルベク候右ニ關シテハ均衡政策ヲ遂行セラルヽモノト存シ候日本向輸出ノ增進及特ニ土人ノ購買力ヲ增加スル產品(砂糖、「コプラ」、「カボック」、珈琲、「パーム」油、煙草、玉蜀黍、「ダマル」、「コパル」及其他ノ樹脂及籐)ノ輸出ノ恢復ハ輸入可能性ノ維持及增大ニ特ニ寄與シ得ベシト信ジ候和蘭政府ハ蘭領印度ノ必要トスル物品ニ關シ禁止的又ハ制限的措置ヲ執ルコトヲ能フ限リ差控フベシトノ日本國政府ノ意嚮ヲ滿足ヲ以テ諒承仕リ候又和蘭國政府ハ原料或ハ燃料ノ缺乏スル場合ニ付テ表明セラレタル留保ヲモ諒承致候日本國政府ハ土人產品ノ輸入ヲ增加スル爲ノ實質的措置ヲ示唆セラレ候處右示唆ハ其ノ正當ナル價値ニ從ヒ「アプレシエート」セラルベク和蘭國政府ハ右措置ガ「ハルト」石澤協定ニ特記セラレタル產品ノ輸入ノ恢復又ハ改善ニ寄與センコトヲ敢テ希望スル次第ニ有之候

入國問題

和蘭國政府ハ遺憾乍ラ外國人ノ勞働許可ヲ規定スル規則ヲ撤廢スルコトヲ得ザル次第ニ有之候元來右規則ハ蘭領印度ニ於テ勞働力ノ保護特ニ相當進步セル文化ノ程度ニ達セル土人、歐羅巴人及(蘭領)印度ニ於テ生レタル非土人タル東洋人ニ關スル勞働力ノ保護ニ必要ナル措置ヲ構成スルモノ

ニ有之右規則ヲ撤廃スル時ハ凡ユル種類ノ外國人ノ殺到ヲ招キ以テ前掲諸人種カ就職スル可能性ニ重大ナル支障ヲ與フル結果ヲ來スニ至ルヘク候他方一國ノミニ適用セラル、部分的撤廃ノ如キハ凡ユル國民ニ對シ同一待遇ヲ與フル和蘭國政府ノ傳統的政策ト背馳スルヲ以テ之ヲ爲スコト不可能ナルコト勿論ニ有之候又斯ル措置ハ希望セラレタル現狀ノ侵犯ト相成ルベク候

和蘭國政府ハ日本人ノ要求ハ深甚ノ考慮ヲ以テ取扱ハレ且事業主ガ許可取得ノ必要ヲ證明シタル場合右許可ガ賦與セラレザリシ如キ場合ハ一モ發生シタルコトナシトノ意見ニ有之候又和蘭國政府ハ右政策ヲ繼續シテ實行致スベク依テ日本政府ニ於テモ右措置ノ必要性ヲ充分了解セラレ將來其ノ臣民ノ爲何等重大ナル困難ヲ危惧セラルル如キコトナカルベシト確信仕候

我政府ハ日本國ニ於テハ和蘭國商人及其商業使用人ノ入國ニ付何等ノ制限存在シ居ラザルコトヲ多トシ居ルモノニ有之候ヘ共日本國ニ於ケル和蘭國臣民ハ極メテ小數ナルコト及當該商人ハ大部分日本人勞働力ヲ使用シ居ル事實ハ之ヲ考慮スルコトヲ要スベシト存候

商社及投資

和蘭國政府ハ蘭領印度ニ於テハ外國人ニヨル企業開始及投資ニ關シテ自由政策ヲ採リ居ル事實ニ關シ注意ヲ喚起スルモノニ有之候

右政策ハ一九一二年ノ日蘭通商條約中ニ表示セラレ居ル處ニシテ和蘭國政府ハ蘭領印度居住者ノ利益又ハ和蘭王國ノ死活的利益ヲ害スル場合ノ外何等條件乃至制限措置ヲ設ケタルコト無之又斯ル場合モ第三國ニ關シ一律ニ適用シ來レルモノニ有之候和蘭國政府ノ意見ニ依レバ右政策ハ極メテ公平且公正ニテ將來ニ於テモ維持セラルベキモノニ有之候前述ノ如キ理由ヨリシテ特定國ニ對シ除外例ヲ設クルコトハ不可能ニ有之候又各個ノ場合ニ關シ卽チ和蘭國政府ハ日蘭合同企業ニ付キテモ亦各個人商人ノ發意ニ委セラレ居ル事實ニ付日本政府ノ注意ヲ喚起スルモノニ候又政府ハ或企業ニ對シテハ公共上ノ理由ニヨリ開發ノ權利ヲ留保スルモノニ有之候

尙和蘭國政府ハ蘭領印度ニ於テ日本國ノ利益カ和蘭國政府ノ完全ナル保護ヲ享有シ居ルト同樣日本國政府ニ關スル限リ日本、支那、滿洲ニ於テ和蘭國ノ利益カ保護セラル、モ

ノナリト推測致候

然日本政府ニ於テ予定セラルヽ是等ノ地域ニ於ケル投資ノ使宣(ママ)ハ和蘭國政府ノ多トスルトコロナル處和蘭國政府ハ差當リ右ノ如キ投資ニ付キ和蘭國臣民カ有スルコトアルベキ興味ハ比較的僅少ナリト思考致候

新聞取締

蘭領印度官憲カ第三國ニ對シ好マシカラザル性質ヲ有スル新聞記事ノ掲載ヲ抑制スル樣新聞ニ對シ深甚ナル注意ヲ拂ヒ居ルコトハ日本政府ノ御承知ノ通リ有之右注意ニ依リ蘭領印度ニ於ケル支那事變ノ反響カ抑制セラレ且ツ一時ナリトモ重大ナル性質ヲ帶ビタルコトナキコトヲ陳述スルコトハ有益ト存候尚現在ニ於テハ右取締ハ更ニ强化セラレ居リ候

和蘭國政府ハ右ノ如キ措置ニヨリ新聞ノ活動ノ爲ニ友好關係カ危險ニ陷ルカ如キ憂ハ毫モナキモノト思考致候

前記ノ如キ論據ニ鑑ミ和蘭國政府ハ現在實際上ノ關係ニヨリ補足セラレタル現行諸條約ハ和蘭國及日本國間ノ良好關係特ニ蘭領印度及日本國間ノ經濟關係ニ付テモ右良好關係ガ維持セラルベキ原則及基礎ヲ滿足ニ表現シ居ルモノト思考致候

和蘭國政府ハ日本國政府ニ於テ疑念ヲ抱カルベキ諸問題ニ關シ前記記述中ニ滿足ナル說明ヲ與ヘタルモノト信ジ度候尤モ今後蘭領印度及日本國間ノ經濟關係ニ關スル具体的問題ニ付双方ヨリ個々ノ問題提起セラルヽコトハアリ得ベキ處如斯場合ハ右問題ハ在「バタビア」日本國總領事及蘭領印度政府ノ指示スベキ機關ニヨリ討議セラレ且ツ處理セラルベク候

和蘭國政府ハ多クノ場合如斯シテ此等ノ問題ハ解決ヲ見出シ得ルモノト信ジ候、本使ハ玆ニ閣下ニ向ツテ敬意ヲ表シ候

敬　具

一九四〇年六月六日

和蘭國特命全權公使

イユー・セー・パブスト

外務大臣　有田　八郎閣下

附屬書

一九四〇年五月十八日附ヲ以テ在「バタヴィア」日本國總領事ニ依リ蘭領印度總督ニ提出セラレタル書翰及一九四〇

年五月二十日有田八郎閣下ニ依リ在東京和蘭國公使ニ提出セラレタル書翰中ニ掲記セラレタル十三ノ輸出品ニ關スル若干ノ備考

「ボーキサイト」　（二〇〇、〇〇〇「キロトン」）
「クローム」鐵鑛　（　五、〇〇〇「同　」）
「ニッケル」鑛　（一五〇、〇〇〇「同　」）
錫及錫鑛　（　三、〇〇〇「同　」）
護謨　（二〇、〇〇〇「同　」）
規那皮　（　六〇〇「同　」）
蓖麻子　（　四、〇〇〇「同　」）

以上ノ諸品ニ對スル數字ハ何等ノ備考ヲ必要トセズ

石油產品（一、〇〇〇、〇〇〇「キロトン」）ニ對スル數字ハ過去三ケ年間ニ於ケル蘭領印度ノ日本向平均輸出量ニ超過スルモノニシテ右輸出ハ左ノ通ナリキ

一九三七年　八六九、〇〇〇「キロトン」
一九三八年　六六八、〇〇〇「同　」
一九三九年　五七三、〇〇〇「同　」

蘭領印度ノ石油會社ハ日本側ニ於テ適時ニ契約ガ締結セラルヽコトヲ條件トシ右要求量ヲ供給スルコト可能ナリト思考セラル鹽一〇〇、〇〇〇「キロトン」ハ蘭領印度ニ於テ生產セラルヽコト可能ナリ但シ新鹽田ヲ開發スルコト必要ナルニツキ數年間ノ契約ヲ締結セラルヽコトヲ條件トス元來蘭領印度ニ於ケル鹽ノ生產ハ專ラ國內市場ニ向ケラレ居ル處準備量ハ惡天候ノ結果殆ド枯涸シ居リ從テ一九四〇年九月以前ニ供給ヲ開始スルコトハ普通ニテハ不可能ナルベシ尤モ數年間ニ付キ契約ヲ締結セラルヽニ於テハ右期日ハ繰上ゲラルベシ蓋シ右ノ場合ハ必要ナル準備量カ補充セラルヽコト確實ナルヲ以テナリ

屑鐵（一〇〇、〇〇〇「キロトン」）ニ對スル數字ハ每年輸出ニ供シ得ル數量ヲ超過ス一九三七年ニハ一〇三、七〇〇「キロトン」一九三八年ニハ六〇、六〇〇「キロトン」及一九三九年ニハ四七、二〇〇「キロトン」ヲ輸出シタル處右輸出數量ハ殆ド專ラ日本ニ向ケラレタリ輸出ニ向ケ得ル數量ノ屑鐵ヲ日本向輸出ニスルコトハ如何ナル制限ニモ服セシメラレザルベキコトヲ保障スル用意アリ「マンガン」鑛（五〇、〇〇〇「キロトン」）ニ付テノ數字ハ正確ニ非ザルヤニ思考セラル卽チ蘭印ノ全輸出數量ハ殆ド全生產量ニ相當シ一九三七年ニハ一五、七〇〇「キロトン」、一九三八年ニ

ハ一一、二〇〇「キロトン」ニシテ一九三九年ニハ七、三〇〇「キロトン」ナリシ處日本ハ右數量ノ内全然買付ヲ爲シ居ラズ而シテ現ニ稼行中ノ鑛山以外ニハ重要ナル鑛區ノ存在知ラレ居ラザル次第ナリ日本ハ現ニ實行中ノ契約ノ許ス限リハ自由ニ本產品ヲ買付得ベシ

「ウオルフラム」及「モリブデン」（一、〇〇〇「トン」）ハ現實生產ノ數字ト符合セズ尤モ「ウオルフラム」ハ錫採掘中極メテ少量取得セラルヽニ過ギズ右數字ハ最高年數「トン」ナル處常ニ日本ニ輸出セラレ居タリ又「モリブデン」ノ輸出ハ嘗テ行ハレタルコトナシ右ハ蘭領印度ニ於テハ極メテ稀ニ發見セラルヽニ過ギズ

編注一　本文書の原文（仏文）は省略。なお、本書簡の番号は「873 H. H. 18(G)」。

二　本文書は、昭和二十六年六月、外務大臣官房文書課作成「外交史料　日、蘭印經濟交渉ノ部」より抜粋。

445

昭和15年6月28日　有田外務大臣より在本邦パブストオランダ公使宛

日蘭印経済関係調整問題に関する蘭側回答に対し入国、企業および投資問題の解釈につき わが方見解回示について

以書翰啓上致候、陳者本月六日附貴翰第八七三H、H、一八(G)號ヲ以テ日本國蘭領印度間重要諸懸案ニ關シ御回答越ノ次第有之右ニ對シ本大臣ハ帝國政府ノ意向左ノ通リ申進スルノ光榮ヲ有シ候

一、前記諸懸案ノ内入國、企業竝ニ投資問題ニ付テハ遺憾ナガラ貴方ハ未タ我方ノ意ノ存スル所ヲ充分ニ諒解シ居ラレサル樣認メラレ殊ニ前記諸問題ガ我方多年ノ擧國的ナル要望ナルコト御承知ノ通リナルニ拘ラズ貴方ニ於テ之ヲ大局的見地ヨリ考慮セラルヽコトナク、今尚局所的立場ヨリ論議セラルヽヲ知リ大ナル失望ト不滿トヲ禁シ得サルモノニ有之候、仍テ入國、企業竝ニ投資ノ諸問題ニ關シ茲ニ再ヒ帝國政府ノ見解ヲ披瀝シ和蘭國政府ノ深甚ナル考慮ヲ求メムトスルモノニ有之候

二、抑モ現代ニ於ケル世界ノ不安竝ニ諸國間ノ軋轢ハ主トシテ不合理ナル領土的關係ニ基ク資源ノ不公正ナル配分ニ基因スルコト論議ノ余地ナキ所ニ候

卽チ世界ノ現狀ハ一部ニハ廣大ナル未開ノ地方アルト共ニ他方ニハ發溂タル生活力ヲ有シツヽ過剩人口ニ惱ム國尠カラズ、カヽル現狀ハ寔ニ不合理ニシテ之ヲ合理化シ正當化スルニ非ザレバ勢ヒ力ノ衝突トナリ國際間ノ平和ハ之ヲ庶幾スルニ由ナキモノト存ゼラレ候

從ツテ斯ル事態ノ發生ヲ防止セムカ爲ニハ資源豐富ニシテ廣大ナル未開發ノ領土ヲ有スル國々ガ卒先シテ其ノ資源ヲ世界ニ開放シ、入國ヲ自由トシ、企業的活動ニ課シタル制限ヲ撤廢スルコト緊要ナリト思考致シ候

三、和蘭國政府ガ蘭領印度ニ關シ過去ニ於テ取リ來レル政策ハ比較的自由且平等ニ各國民ノ經濟活動ヲ許容シ或ル程度ニ於テ東亞ノ平和及繁榮ニ寄與シタルハ帝國モ之ヲ認ムルニ吝ナラザル次第ニ候。然ルニモ拘ハラス近年ニ於ケル和蘭國ノ政策ハ遺憾ナガラ門戸閉鎖的ニシテ就中日本トノ關係ニ於テ其ノ傾向次第ニ顯著トナレルハ否ミ難ク、更ニ甚タシキハ蘭領印度ニ於ケル重要企業特ニ鑛業ニ於テハ蘭領印度ト地理的ニ遠隔ナル一、二ノ國家ニ對シテハ夙ニ廣汎ナル權益ヲ與ヘナカラ、日本ニ對シテハ殆ント之ヲ許與セラルヽコトナク今日ニ及ヒ居リ、遂ニ日本朝野ニ甚大ナル不滿ノ念ヲ植付クルニ至リタルコトハ帝國政府ノ最モ遺憾ニ堪エサル次第ニ有之候

帝國トシテハ斯ル事態ヲ矯正セムカ爲貴國政府ニ對シ、入國及企業ニ課セラレタル制限措置ノ撤廢方ニ關シ友好的解決ヲ計ラムト欲シ連年交渉ヲ繼續シ來レルハ夙ニ御承知ノ通リニ有之候

四、帝國政府ハ前記諸觀點ニ基キ此ノ際蘭領印度ニ對スル本邦人ノ入國、企業竝ニ投資ニ關シ茲ニ更メテ我方ノ卒直ナル要求ヲ別紙附屬書ノ通リ提示シ、本件ニ對スル和蘭國政府ノ愼重ナル考慮ヲ促スト共ニ和蘭國政府カ日蘭間ノ傳統的親善關係ニ基キ右要求ニ對シ速ニ同意セラレムコトヲ要請スルモノニ有之候

右申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ貴公使ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬　具

昭和十五年六月二十八日

外務大臣　有田　八郎

和蘭國特命全權公使

「ジェネラル、イェー、セー、パブスト」閣下

附　屬　書

一、入國問題

前記我方ノ要望スル蘭領印度ニ對スル經濟的發展ヲ期スル上ニ重大ナル障碍ヲナスモノハ蘭印ニ於ケル現行外國人勤勞條令ナルニ鑑ミ帝國政府ハ入國問題ノ緩和方ニ關シ最小限度左ノ通リ要求ス

現行外國人入國令ニ定メラル、日本人ノ蘭印入國割當數ハ普通割當八百名及追加割當(外國人入國者ノ合計ガ一萬人ニ達セサル場合ハ一九二四年乃至一九三三年ニ於ケル日本人入國總數ノ一割迄入國ヲ許可セラル、モノ)八百三十三名合計一千六百三十三名ナルヲ以テ右限度迄ノ日本人ノ入國ハ帝國政府ニ於テ其ノ必要ヲ認メ發給セル旅券ヲ有スル限リ外國人勤勞條令ニ定メラル、ガ如キ煩鎖ナル手續ヲ踏ムコトナク自由ニ之ヲ許可スルコト

但シ

(イ)二、ノ(1)ノ新規企業ノ爲必要ナル人員ハ右入國割當中ニ包含セシメザルコト

(ロ)一時旅行者ハ右入國割當中ニ包含セシメザルコト

二、企業及投資關係

(1)新規企業

近來蘭領印度政府ハ各種法規ノ發布又ハ改正ニ依リ、我方ノ最モ重要視スル石油其他主要鑛物ノ有望ナル鑛區ハ殆ント全部之ヲ政府ノ爲ニ保留シ以テ日本人カ此ノ種鑛業權ヲ獲得スルノ余地ナカラシムルニ至レルノミナラス既存鑛業權ノ讓渡モ之ヲ認メサルニ至レリ然ルニ英國、米國等ハ此等新法規ノ發布前既ニ石油其他主要鑛物ノ有望ナル鑛區ヲ獲得シ之カ採鑛ヲ大規模ニ行ヒ居レリ。仍テ我方トシテハ此ノ際蘭領印度政府ニ對シ今後ハ現行法規ニ拘ハラス機會均等ノ見地ヨリ石油及各種鑛物ノ探鑛竝ニ採鑛ニ關スル日本人ノ申請ニ對シテハ之ヲ許可スルト共ニ既存利權ノ日本人ニ對スル讓渡ヲモ認ムル樣要望ス、尙其他鑛業以外ノ日本人ノ新規企業ニ對シテモ同樣之ヲ許可セラレ度シ。而シテ差當リ日本側ニ於テ着手致度新規企業左ノ如シ

A、鑛　業

蘭領印度ニ於ケル石油鑛區(政府ノ保留地ヲ含ム)ノ全部ニ對スル探鑛及採鑛竝ニ其他ノ鑛區(政府ノ保留地ヲ含ム)ニ於ケル各種鑛物ノ探鑛及採鑛

B、其他企業

日蘭印間航空路ノ開設、日蘭印間新海運航路ノ開設、水産業、林業、農業、及各種工業

以上A及Bノ企業着手準備ニ對シ蘭印當局ノ協力及一切ノ便宜供與ヲ要望ス

(2)既存企業ニ對スル便宜供與

(イ)鑛　業

現在日本人ノ經營スル鑛業ニ對シ其ノ發展及合理的經營ヲ可能ナラシムル爲其ノ擴張ノ余地ヲ與フルト共ニ各種障碍ヲ除去スルコト

(ロ)海　運

現在蘭印ニ於テ沿岸貿易ヲ許可セラレ居ル日本船舶ニ對スル航行區域制限ノ撤廢、閉鎖港ノ再開及出入船舶ノ噸數制限ヲ撤廢スルコト

(ハ)農　業

既存農園ニ對シ其ノ發展及合理的經營ヲ可能ナラシムル爲其ノ擴張ノ余地ヲ與フルト共ニ各種障碍ヲ除去スルコト

(ニ)漁　業

既存漁業ニ對シ發展ノ余地ヲ與フルコト卽邦人漁業ハ殆ンド全部ガ公海漁業ナルヲ以テ之ニ對シテハ營業上必要トスル漁船數及漁夫ノ增加ヲ認メ且漁獲物ノ輸入港ニ關スル制限ヲ撤廢シ輸入稅ヲ免除スルコト

(ホ)其他ノ企業

日本人ニ關係アル倉庫業、印刷業、織布業、製氷業及護謨「スモーク」工場ノ營業制限ヲ緩和スルコト

三、新聞關係

(1)從來蘭印當局ニ於テハ日本人ノ馬來語及支那語新聞經營ヲ阻止スルノ方針ヲ執リ居ル處支那人ニ對スルト同樣日本人ニ對シテモ其ノ經營カ合法的ナル限リ之ヲ許可スヘキコトヲ要求ス

(2)從來蘭印ニ於ケル一般官民ノ日本ノ眞意ニ關スル認識ハ全ク欠如シ對日態度ニ遺憾ノ點多ク兩國間ノ友好關係ヲ阻害スルコト甚シキハ主トシテ新聞ノ反日的態度ニ起因スルモノナルヲ以テ帝國政府ハ之カ徹底的取締方ニ關シ左ノ通リ要求ス

(イ)和蘭人經營新聞

反日的態度ノ最モ甚シキハ和蘭語新聞ニシテ而モ從來之カ取締ハ殆ント行ハレタルコトナキニ付今後ハ之カ徹底的取締ヲナスコト

(ロ)支那人經營新聞

支那人經營新聞ノ取締振ニハ今尚遺憾ノ點多ク支那新聞ハ依然故意ニ揑造的反日記事ヲ掲ケ居ルモ之カ取締上殆ント誠意ノ認メラレサルニ反シ日本人經營ノ新聞カ汪精衛支援ニ關スル記事ヲ掲ケタルニ對シ右カ蘭印在留支那人ノ感情ヲ刺戟スルモノナリトシテ發行停止ヲ命シ又支那ニ於ケル我方占領地域内ニ於テ發行セラルヽ新聞等ハ反蔣的ナルノ故ヲ以テ一切輸入禁止ヲナス等不公平ナル待遇ヲナシ居ル處今後ハ支那新聞ノ取締ヲ一層嚴重化スルト共ニ我方新聞ニ對スル不公平ナル態度ヲ是正スルコト

編注　本公信の公信番号は不明。

446

昭和15年6月28日　有田外務大臣より在本邦パブストオランダ公使宛

蘭印産物資十三品目の年間対日供給量に関する蘭側回答の解釈につき照会

付記　昭和十五年七月二十六日付在本邦パブストオランダ公使より松岡外務大臣宛公信

右照会に対する蘭側回答

通六機密第一九號

以書翰啓上致候陳者客月二十日附通六機密第一〇號拙信ヲ以テ申進候蘭領印度產原料品ノ對日輸出ニ關シ本月六日附第八七三號H、H一八(G)貴信中ニ於テ御回答相成之ヲ閲悉セルコトヲ通報スルノ光榮ヲ有シ候

貴公使閣下ハ右貴翰中ニ於テ「和蘭國政府及蘭領印度總督府ニ於テモ貴翰ニ掲記ノ十三品目ニ付要求セラレタル數量ノ輸出ヲ阻害スヘキ措置ヲ執ラサルヘキコトニ付日本國政府ノ要求ニ係ル保障ヲ繰返スコトニ付何等ノ反對ナシ」ト述ヘラレ候處右ハ前顯拙信ニ照シ「和蘭國政府及蘭領印度總督府ニ於テハ前記拙信掲記ノ十三品目ニ付要求セル數量(別紙附屬書ニ於テ詳細御承知相成度)ハ之ヲ毎年最小限度トシテ如何ナル事態ニ於テモ對日輸出ヲ爲スコトヲ確約セラレタルモノト諒解シ尚又右確約ヲ實行セラルル爲ニハ要

スレハ適當ナル措置ヲ執ラルルハ勿論輸出値段ハ市價ヨリ高カラサルヘキモノナリ」ト解釋致スコト當然ナリト思考致居候處右ニ御異議アラハ何分ノ儀至急御回答相成度候

右申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬　具

昭和十五年六月二十八日

外務大臣　有田　八郎

和蘭國特命全權公使

「ゼネラル、イェー、セー、パブスト」閣下

附　屬　書

一、「ボーキサイト」　二〇〇、〇〇〇瓲
二、「クローム」鐵鑛　五、〇〇〇同
三、「ニッケル」鑛　一五〇、〇〇〇同
四、「ゴ　ム」　二〇、〇〇〇同
五、規　那　皮　六〇〇同
六、「ヒ　マ　シ」　四、〇〇〇同
七、屑　鐵　輸出可能量

右ノ内一、二、及三、ニ關シテハ既ニ日本國商社ト蘭領印度商社トノ間ニ私的契約ニ依リテ買付クルコトトナリ居ルニ付右契約期間中毎年所定ノ數量マテハ輸出ヲ可能ナラシメラレ度シ

四、及五、ニ付近ク日本國商社ト蘭領印度商社トノ間ニ賣買契約ヲ締結スル筈ナルニ付右御承知ノ上契約締結方ニ付必要アラハ何分ノ御援助ヲ與ヘラレ度シ

六、ニ關シテハ蘭領印度ニ於ケル輸出業者ヨリ輸出許可願出タル場合之ニ對シ遲滯ナク許可ヲ與ヘラルル樣致度シ

七、屑鐵ニ關シテハ御來示ノ通リ御取計相煩度シ

八、錫及錫鑛

日本國商社ハ現在「バンカ」錫及「ピリトン」又ハ「シンケップ」ノ錫鑛石買付ノ爲蘭領印度ノ當該經營者ト契約締結ノ爲交渉中ナルニ付其成功ニ付蘭領印度總督府ニ於テモ便宜ヲ與ヘラレ度シ

尙右契約ニ於テ「バンカ」錫二千瓲鑛石一千瓲買付方希望スル次第ナリ

九、滿俺鑛

本品ハ日本ニ於テ一九三〇年七千六百十四瓲、一九三一

年三百八十一瓲、一九三二年二千二百三十九瓲、一九三八年二百八十五瓲ノ輸入實續（績カ）ヲ有シ居ルニ鑑ミ今後差當リ少クモ爪哇ヨリ毎年一萬五千瓲「ボルネオ」ヨリ一萬二千瓲輸入致度目下日本國商社ニ於テ蘭領印度當業者ト契約締結方交渉中ナルカ蘭領印度總督府ニ於テモ之カ成立ニ付援助ヲ與ヘラレ度シ

一〇、「ウォルフラム」鑛

本品ノ現狀ニ付テハ貴信御申越ノ通リトスルモ其生產ヲ增加スル可能性アリト傳ヘラルルニ顧ミ出來得ル限リ多量供給サレ度シ尙本品ノ買付方ニ付日本國商社ニ於テ蘭領印度當局ト交渉中ナルニ付好意的ニ御配慮相煩度シ

一一、「モリブデン」鑛

本鑛ノ採掘ニ關シテハ日本國商社ニ於テ蘭領印度ノ業者ト協力スル用意アルニ付蘭領印度總督府ニ於テモ之ヲ諒解サレ此ノ際此ノ如キ貴重ナル鑛物ヲ對日輸出品トシ多少ナリトモ日本、蘭領印度間ノ貿易ノ改善ニ資スルコトニ御助力相煩度シ

一二、鹽

本品ニ付既ニ日本國商社ト蘭領印度專賣局トノ間ニ少クモ毎年十萬瓲ツツ買付ヲ條件トスル長期買付契約締結方ニ關シ交渉中ナルニ付御承知相成度シ

一三、石　油

從來日本國石油取扱商社カ蘭領印度ニ於ケル石油ヲ買付クル場合ニ於テハ殆ント例外ナク東京ニ於テ當該石油採掘會社ノ代理商社ト契約ヲ爲シ居ル處此等販賣機關ハ自己ノ便宜ニ依リ蘭印以外ノ他ノ石油產出國ヨリ配給ヲ爲スコトアリ又時トシテハ此等販賣機關ハ石油ノ特種品タル關係ヲ利用シ恰モ獨占的振舞ヲ爲スコトアリテ蘭領印度產石油買付方ニ付圓滑ヲ缺クコト多シ故ニ玆ニ日本國政府ノ要求スル所ハ蘭領印度產石油ヲ毎年少クモ一百萬瓲ツツ買付方ニ付長期契約ヲ締結セントスルモノナリニ付蘭領印度總督府ニ於テ適當ナル措置ヲ執ラレ右契約ヲ成立セシムル樣御盡力相煩度シ

編　注　本文書は、昭和二十六年六月、外務大臣官房文書課作成「外交史料　日、蘭印經濟交渉ノ部」より抜粋。

（付　記）

（假　譯）

以書翰啓上致候陳者六月六日附第八七三號拙信ノ字句ニ關シ日本國政府ハ六月二十八日附書翰ヲ以テ其ノ解釋ニ付說明ヲ求メラレ候處本使ハ本國政府ノ訓令ニ依リ右字句ハ蘭印總督ニ提出アリタル一九四〇年五月十八日附覺書中日本政府ニ依リ請求セラレタル保證ノ「テキスト」ト同一ナルコトヲ閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候

上記保證ニ對スル和蘭國政府ノ態度ニ關シテハ本使ハ左ノ通說明スルコトヲ許可セラレ候

和蘭國政府ハ總テノ友好國ヲ同一ニ待遇スルコトニ背馳セサル限リ親善關係ヲ保持スル諸國ノ要求ニ對シ蘭印ノ輸出ヲ調整スルコトヲ常ニ努メ居タル次第ニ有之而テ蘭印物資ノ對日輸出ノ增加ハ常ニ蘭印ノ利益ト考ヘラレ居リタル次第ニ候

斯ル政策ニ基キ和蘭國政府ハ日本國政府ニ依リ指示セラルル產物ノ最少量ニ關スル日本國ノ特別要求ヲ考慮ニ入レ政府ノ執リ得ル凡ユル方法ニ依リ對日輸出ヲ助長シ且容易ナラシムル用意有之候

尙最モ重要ナル產物ノ供給ニ付テハ何等ノ困難ナキコトハ既ニ經驗ノ示ス所ニ候處否ラサル場合ニ於テハ生產ノ限度ヲ考慮シ能フ限リ多量ノ供給ヲ計ルコト可能ニ有之候從テ右ノ場合ハ生產ノ限度カ供給數量ニ影響ヲ及ホス唯一ノ要素ニ有之候

和蘭國政府ハ蘭印原產品ノ對日輸出ヲ阻害スル一切ノ障碍ヲ除去スル爲常ニ協力ヲ爲ス用意有之候、而テ輸出値段ハ市價ヨリ高カラサルヘキコトハ承知仕候

六月二十八日附前大臣書翰附屬書ニ對スル回答ハ本信附屬ニ記載致候本使ハ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候　敬具

一九四〇年七月二十六日

和蘭國特命全權公使

イユー・セー・パブスト

外務大臣　松岡　洋右閣下

附　屬　書

日本國政府ノ資料ニ依レハ「ボーキサイト」「クローム」鐵鑛、「ニッケル」鑛、ゴム、規那皮、錫、錫鑛及鹽ノ買付ニ關スル交涉ハ既ニ日本商社ニ依リ開始セラレ又ハ今後開始セラルヘキ趣ニ有之候若シ右交涉カ困難ニ遭遇スル場

合ハ蘭印官憲ハ協定締結ヲ容易ナラシムルタメ協力スルノ用意有之候

六、「ヒマシ」、七、屑鐵、一〇、「ウオルフラム」鑛、二、「モリブデン」ニ關シテハ和蘭國政府ハ日本國政府ノ希望ニ副フ用意有之候然シ「ウオルフラム」及「モリブデン」ノ輸出ニ對スル見込ニ付テハ和蘭國政府ハ日本國政府ノ見解程樂觀シ居ラサル次第ニ有之候又和蘭國政府ハ石油輸出ノ增加ニ對シ何等ノ反對無之候處該交渉ハ直接當該商社ト爲サルヘキモノナルコトヲ附言致候得共和蘭國政府ハ既ニ此等商社ニ對シ日本側要求ヲ滿足セシムルコトヲ重要視スル旨ヲ通知致候處該商社ハ其ノ協力ヲ約束致シ候

蘭領印度ニ產出セラルル「マンガン」鑛ハ化學及冶金工業ニ使用セラルルモノニ候而シテ冶金工業ニ使用セラルル鑛石ヲ產出スル鑛山ハ總テ開發セラレ居ルモ左程ノ數量ヲ產出セサル處日本ノ關心ヲ有セラルルモノハ實ニ此ノ「マンガン」鑛ナルヲ以テ右ニ關スル御要求ハ困難ニ有之候。然シ乍ラ蘭領印度當局ハ數量ニ余剩ノアル限リ右鑛石ノ日本向輸出ヲ爲ス用意有之候

編注一　本文書の原文(仏文)は省略。なお、本書簡の番号は「1172 H. H. 18(G)」。

二　本文書は、昭和二十六年六月、外務大臣官房文書課作成「外交史料　日、蘭印經濟交渉ノ部」より抜粋。

447

昭和15年7月12日

有田外相閣議説明資料「蘭印ニ對スル貿易企業・入國問題ニ關スル件」

蘭印ニ對スル貿易企業・入國問題ニ關スル件

帝國ト蘭領東印度トノ地理的近接竝ニ有無相通ノ關係ニ鑑ミ兩者ノ經濟的緊密化ヲ圖ルト共ニ、兼テ其ノ豐富ナル資源ヲ開發・利用スル爲邦人ノ經濟的發展ヲ促進シ、以テ日・蘭印間經濟提携ノ實ヲ擧グルコトハ我方多年ノ要望タリシ處、和蘭側トシテハ邦人ノ經濟的進出ヲ喜バズ、形式的ニハ歐米諸國トノ差別的待遇トナラザル範圍內ニ於テ之ヲ阻止セントノ政策ヲ採用シ、貿易ヲ始メ企業的活動竝ニ入國ニ關シ諸種ノ制限的措置ヲ設ケ、之ガ實施ニ當リテハ本邦人ニ不利ナル如ク運用シ來レリ。

帝國トシテハ斯クノ如キ制限ヲ撤廃又ハ緩和セシムル爲、過去數年ニ亘リ和蘭側ト交渉ヲ繼續シ來リシモ、容易ニ局面ヲ打開シ得ザリシ處、歐洲情勢ノ變化ハ本件交渉ヲ有利ニ促進セシムルノ事態ヲ招來セリ。依ツテ此際世界ノ平和、人類福祉ノ增進、共存共榮ノ大局的理由ニ基キ通商・企業及入國ニ關スル事態ノ根本的改善ニ付、左記方針ニ依リ和蘭政府(必要ニ應シ蘭印總督)ニ對シ商議ヲ開始スルコトト致度シ。

甲、通商問題

一、重要物資ノ確保

最近歐洲情勢ノ激變特ニ獨逸ノ和蘭侵入直後英佛竝ニ倫敦ニ遁逃セル和蘭政府ハ、相計リ蘭印物資ノ聯合軍側ヘノ輸入ヲ確保センガ爲、種々ノ措置ニ出ヅル氣配アリタルヲ以テ、差當リ我方ハ先ヅ重要物資確保ノ見地ヨリ、五月二十日十三品目(生ゴム、錫及錫鑛石、鑛油、ボーキサイト、ニツケル鑛、滿俺鑛、ウォルフラム鑛、クローム鐵鑛、モリブデン、屑鐵、工業鹽、ヒマシ、規那皮)ノ一定量以上輸出保障方申入ヲナセル處、客月六日和蘭公使ヨリ、和蘭國政府及蘭印總督ニ於テハ日本國政府ノ要求セル十三品目ニ對シ、之カ輸出ヲ阻害スルカ如キ措置ヲ執ラス、我方希望ニ添フ旨回答越セルモ、其文意中ニ明瞭ヲ缺ク所アリタルヲ以テ之ヲ明確ニスル爲、客月二十八日重ネテ申入レ置タリ。本件重要物資確保ニツキテハ必要ニ應シ其數量ノ增加等ニツキ交渉セムトス。

二、一般通商ノ促進及通商障害ノ除去

前項重要物資確保問題ニ引續キ、一般通商促進ノ目的ヲ以テ從來ノ通商障害除去ノ爲左ノ通リ措置セントス。

(イ)日本商品ノ輸入ヲ最大限ニ確保スル爲、最大限ノ割當ヲ要求スルコト。

(ロ)蘭印在留日本商ノ輸入割當比率ヲ根本的ニ是正セシムルコト。

(ハ)蘭印在留日本人輸入商ニ對シ、第三國品ノ輸入義務ヲ免除セシムルコト。

(ニ)貿易ノ增進ヲ圖ル爲、必要ニ應シ前記十三品目ノ外ニ不要不急品ノ買付ヲモ考慮スルコト。

(ホ)日本ニ不利ナル關稅政策ヲ執ラシメザルコト。

乙、企業問題

近來蘭印ニ於テハ種々法規ノ改正等ニヨリ、我方ノ最モ

重要視スル石油其他重要鑛物ノ鑛區ハ、殆ンド政府ニ於テ保留シ、又既存利權ノ讓渡ヲモ不可能ナラシムルニ至レリ。然ルニ英米等ハ法規改正前既ニ多數ノ有望利權ヲ獲得シ、大規模ニ之ヲ開發經營シ居レルニ付、我方トシテハ此ノ際現行法規ニ拘泥スルコトナク機會均等ノ見地ヨリ、石油其他重要鑛物ノ採掘ニ關スル日本人ノ申請ニ對シテハ之ヲ許可スルト共ニ、既存利權ノ日本人ニ對スル讓渡ヲ認メシムル樣要求シ、更ニ鑛業以外ノ農業、林業、工業ヲ初メ各種新規企業ニ對シテモ、同樣日本人ノ申請ニ對シテハ之ヲ許可スルト共ニ、既存ノ各種企業ニ對シテモ其擴張等ノ申請ヲナスモノニ對シテハ、之ヲ許可スル樣要求セントス。

而シテ我方トシテハ、差當リ蘭印ニ於ケル石油鑛區(政府ノ保留地ヲ含ム)ノ全部ニ對スル探鑛及採鑛竝ニ蘭印各地ニ於ケル(政府保留地ヲ含ム)石油以外ノ各種鑛物ノ探鑛及採鑛ヲ日本人ニ對シ許可スル樣要求スル方針ナリ。

丙、入國問題

蘭印ノ現行入國令ニ依レハ、日本人ハ一ケ年最大限約一千六百人迄ハ入國シ得ルコトトナリ居レル處、右入國令ノ外ニ外國人從業員ノ入國制限ヲ目的トスル外國人勤勞條令ナルモノノ適用ヲ受クル爲、實際ニ於テハ日本人ノ毎年入國數ハ約二百人ニ過キサル現狀ニシテ、是ニテハ邦人ガ經濟的發展ヲナス爲ニハ不充分ナルガ故ニ、日本人ニ對シテハ右勤勞條令ノ適用ヲ事實上停止セシメ、一ケ年一千六百人迄ハ自由ニ蘭印ニ入國シ且從業シ得ル樣之ヲ許可セシムルコト、及今後日本人ガ新規企業ヲナス上ニ必要ナル人員ハ、右トハ別ニ其ノ入國ヲ自由ニ許可セシムル樣要求スルコト。